

息子の嫁









…それでね、いつも来る
宅急便屋が馴れ馴れしくて
困ってるの……。

じゃあ、親父に
代わってもらえば
良いじゃないか。

そうなんだけど、大体
お義父さんが散歩に
行ってる時に来るのよ。

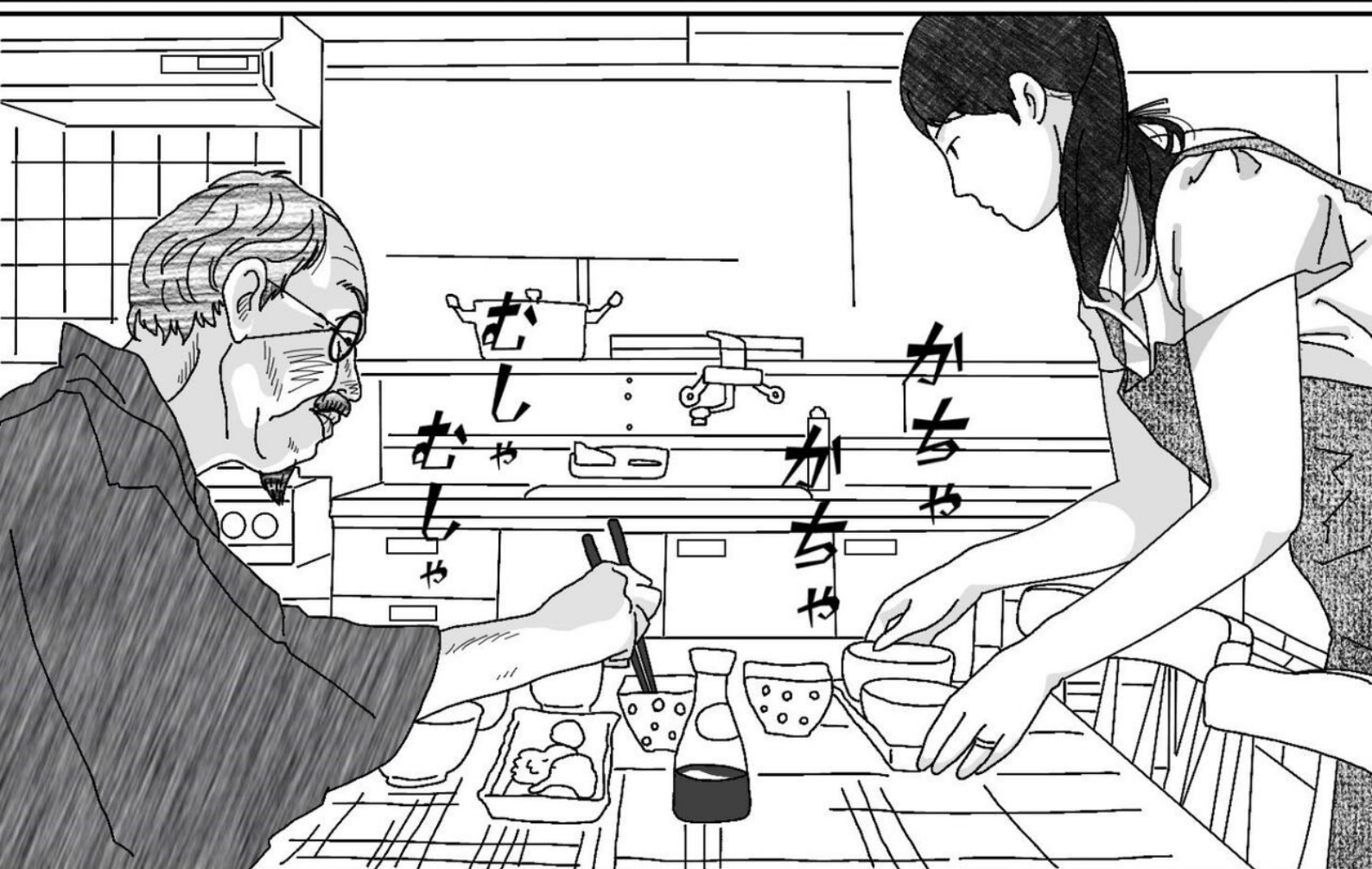


いってらっしゃい。



また、同じような事
したら会社に文句言って
やれよ。じゃあ、行ってくる。

うん。



麗子さんがこの家に来て三年が
過ぎた……。こんなに気立てが
良い美人の嫁を連れて来るとは、
我が息子ながら感謝している。

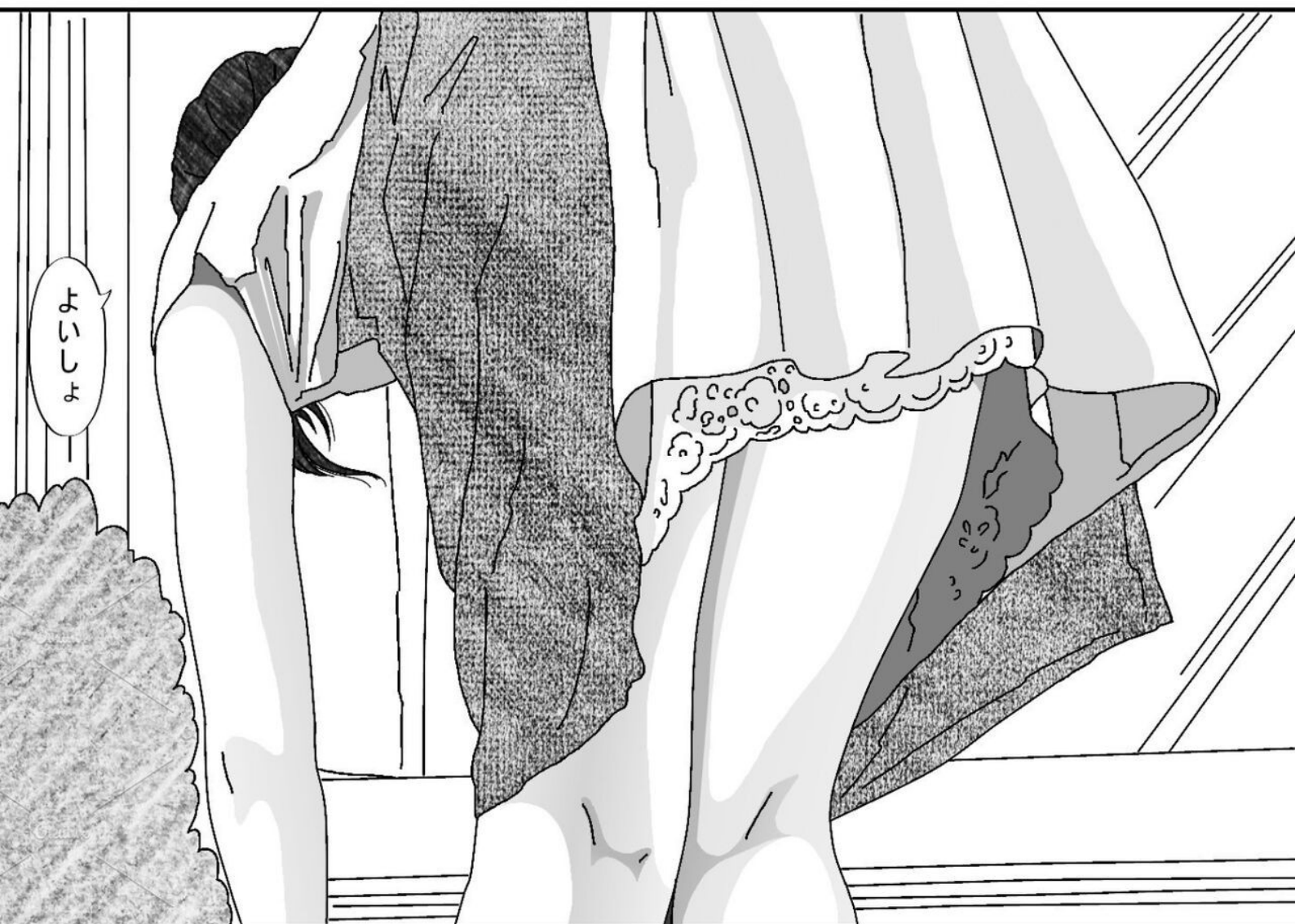
何時も愛らしく、まるで
我が家に咲く花のような
麗子さん……

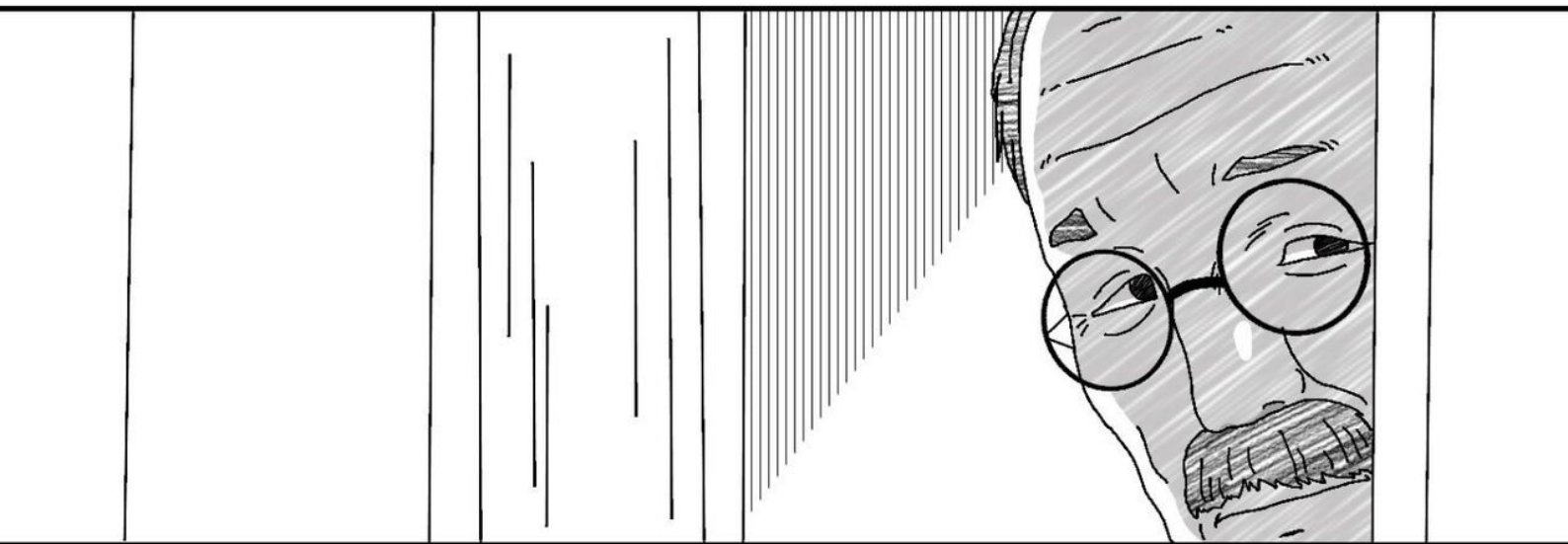
じとー

わしは花が枯れぬよう
毎日観察し、日記を
付けている……





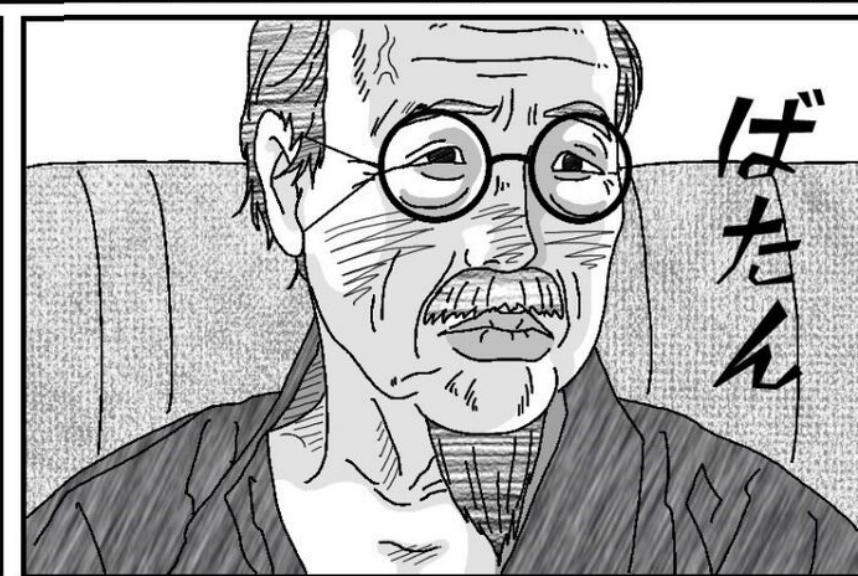




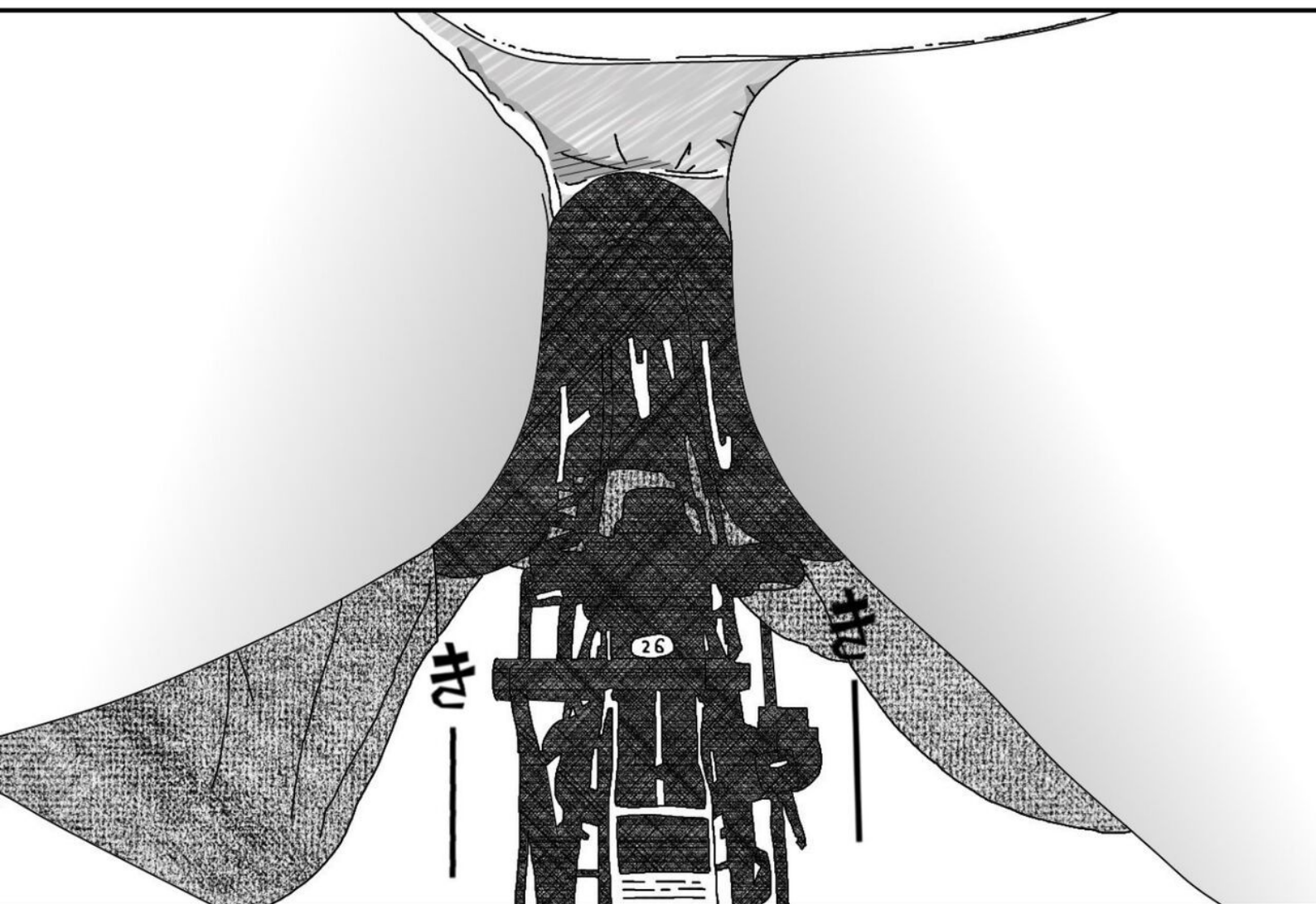












私と麗子さんが
触れ合う唯一の
ひと時。
禁断の性行為。

はぁ

あぁ

はぁ

はぁ

これは、一種の
間接セックス
なのだ。

はぁ

しゅ

しゅ

しゅ

しゅ

…麗子さん！

…麗子さん！

ああ…っ！
…麗子さん！

しこ

しこ

しこ

しこ

しこ

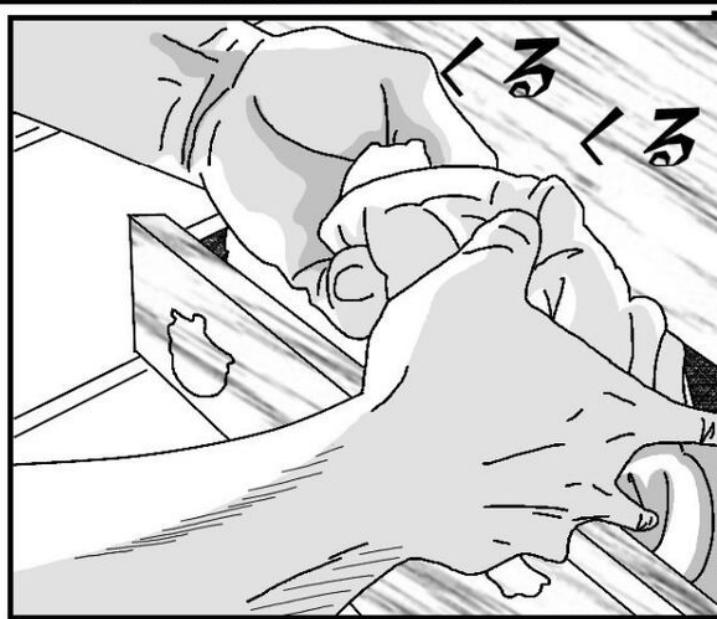
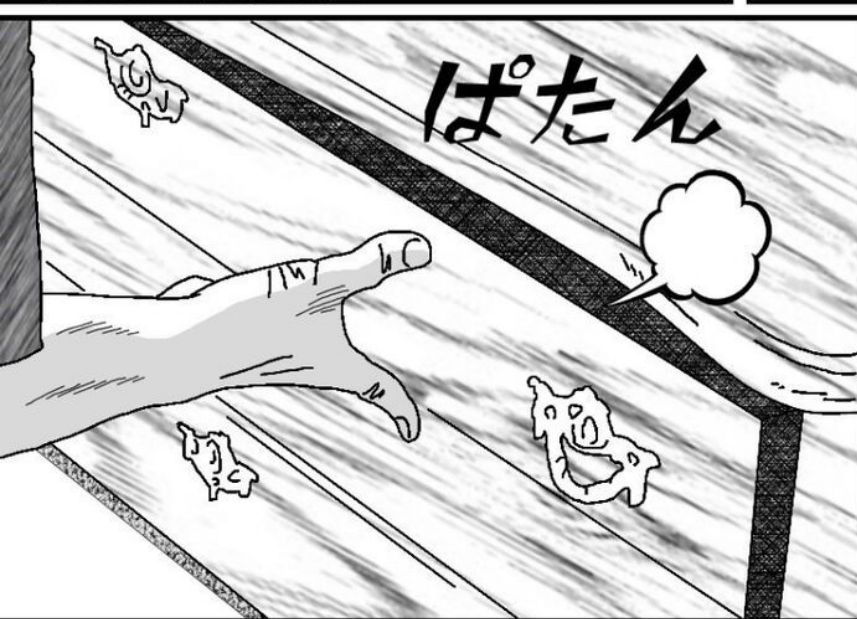
はぁ

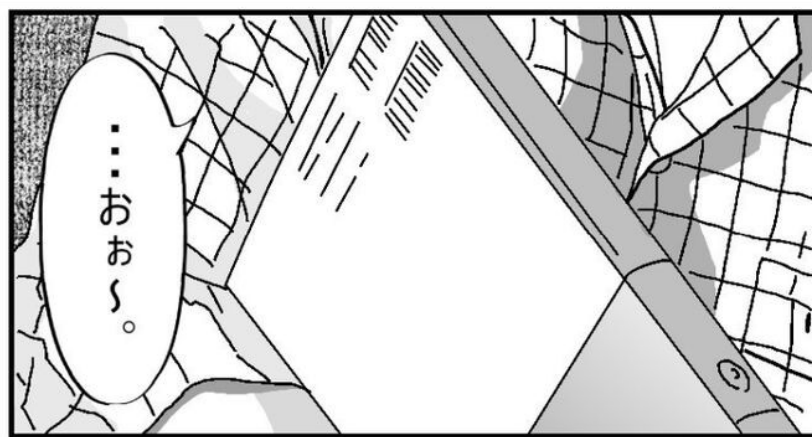
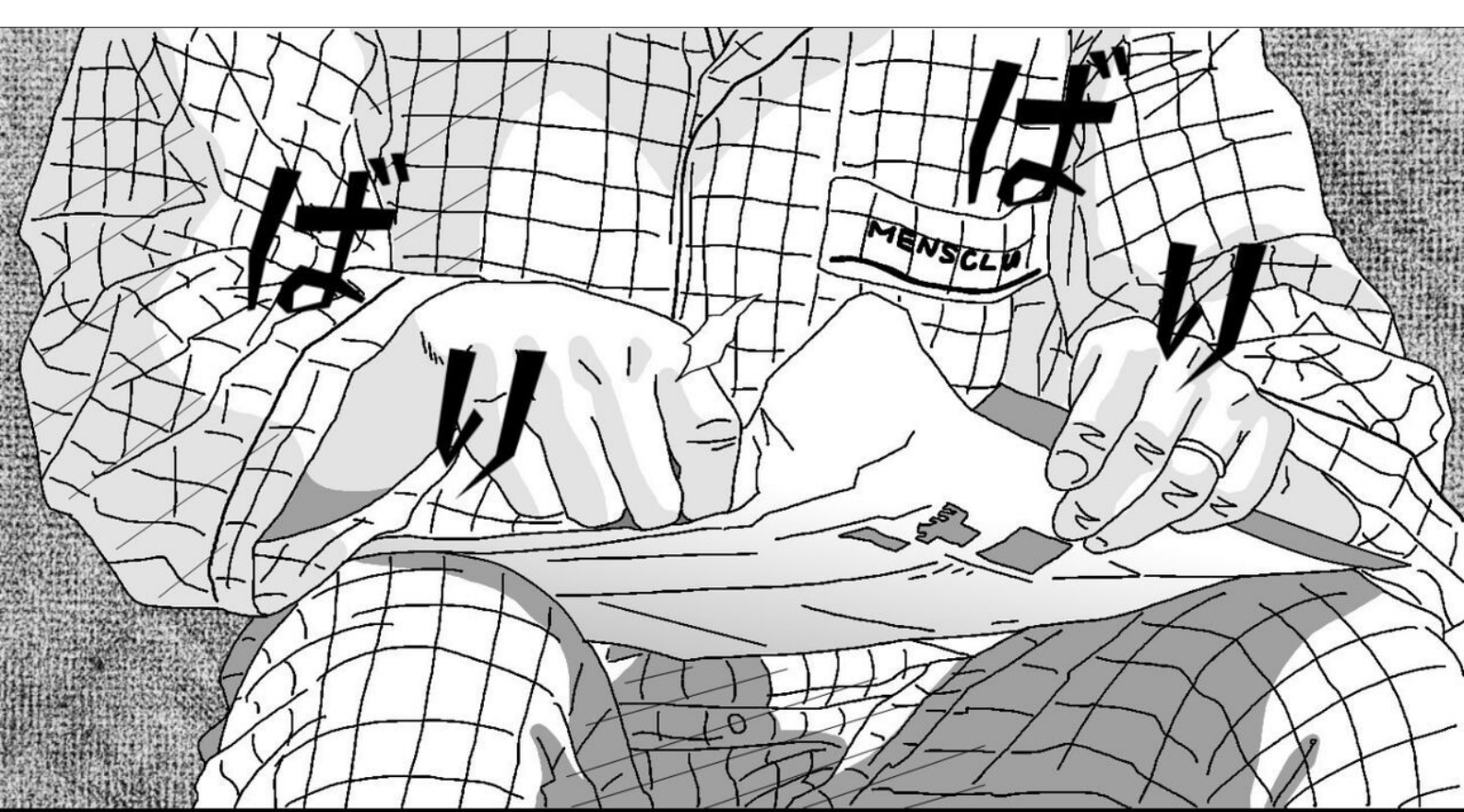
はぁ

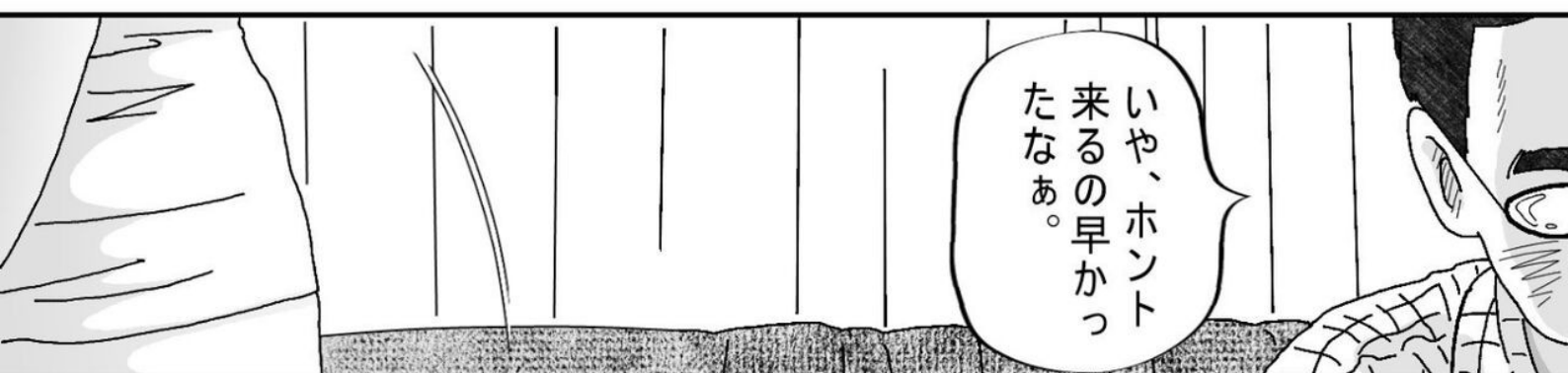
あがぁ！！

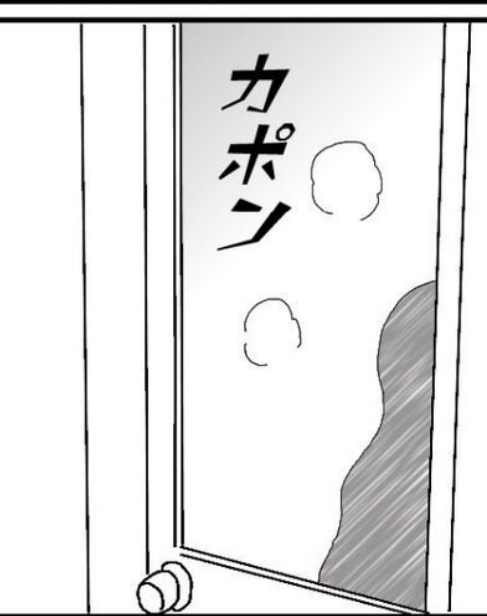
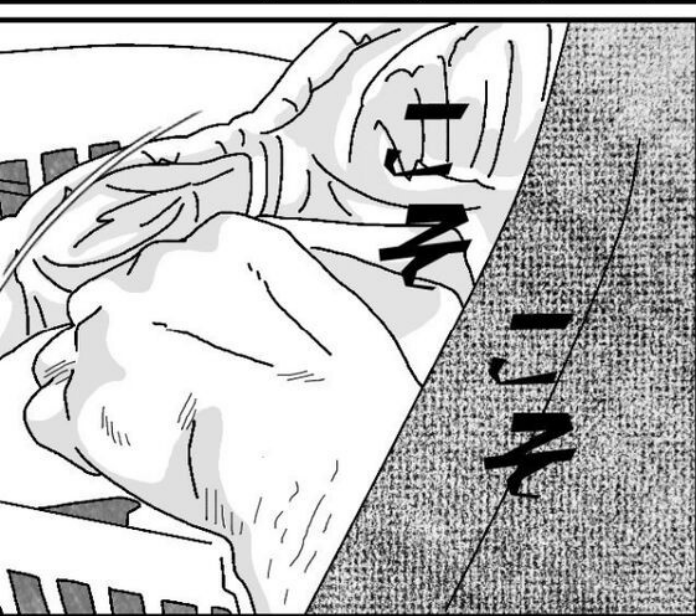
イクー！
イクー！

はぁ

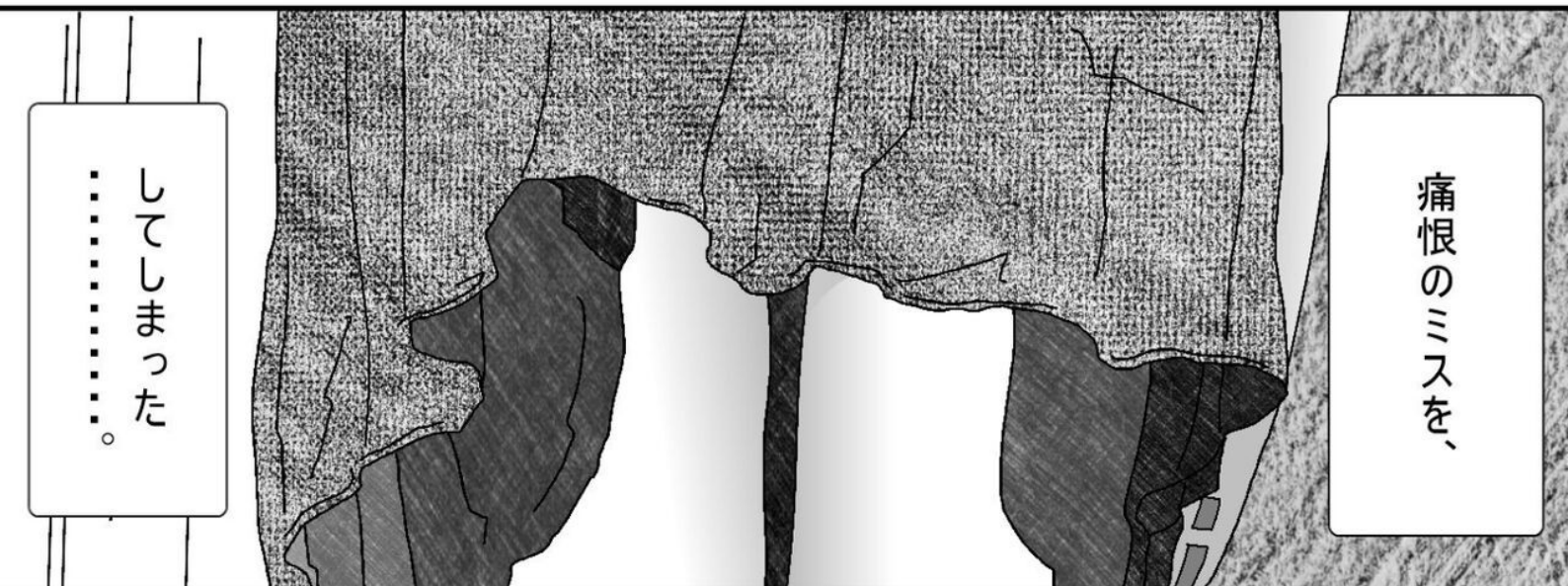
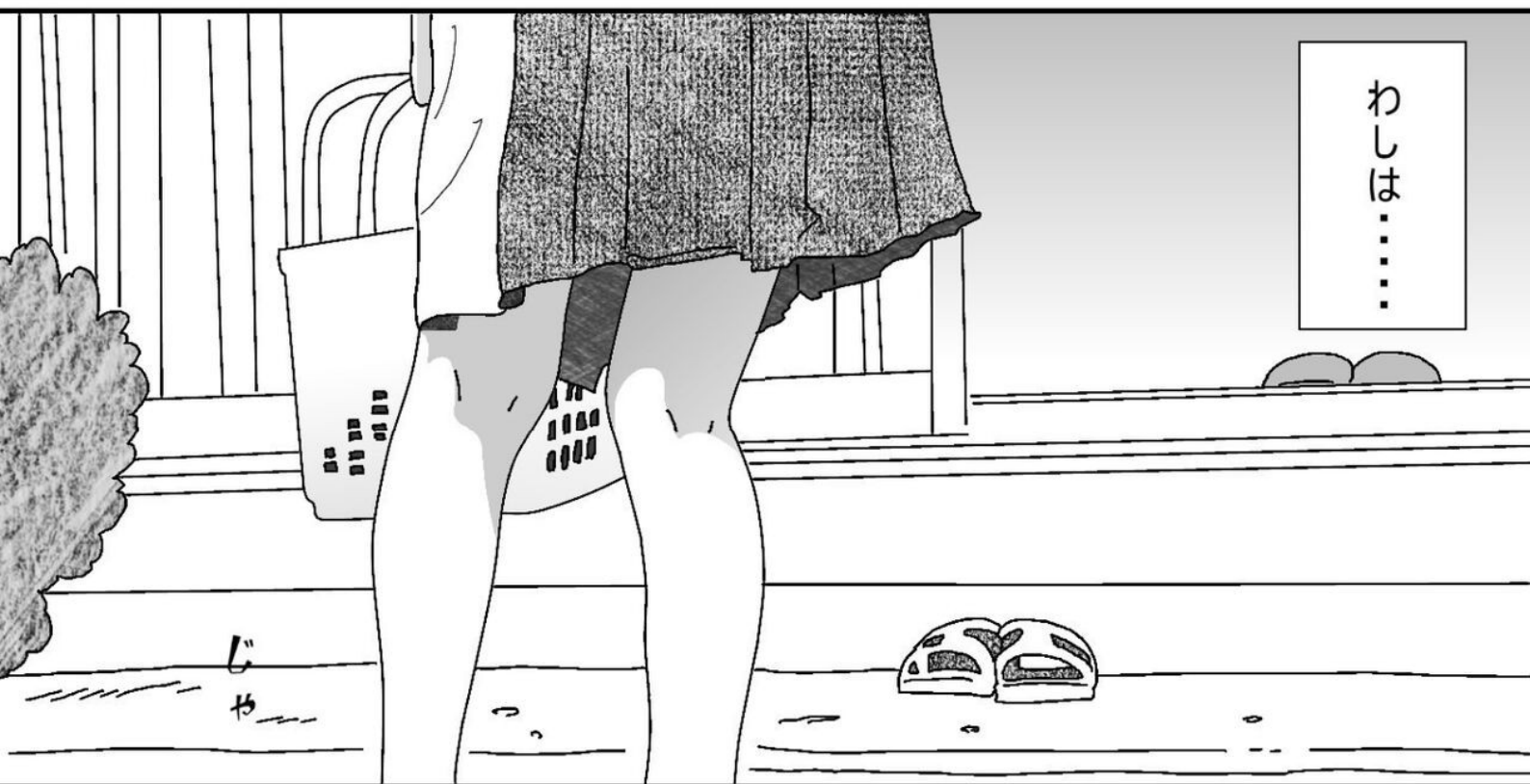






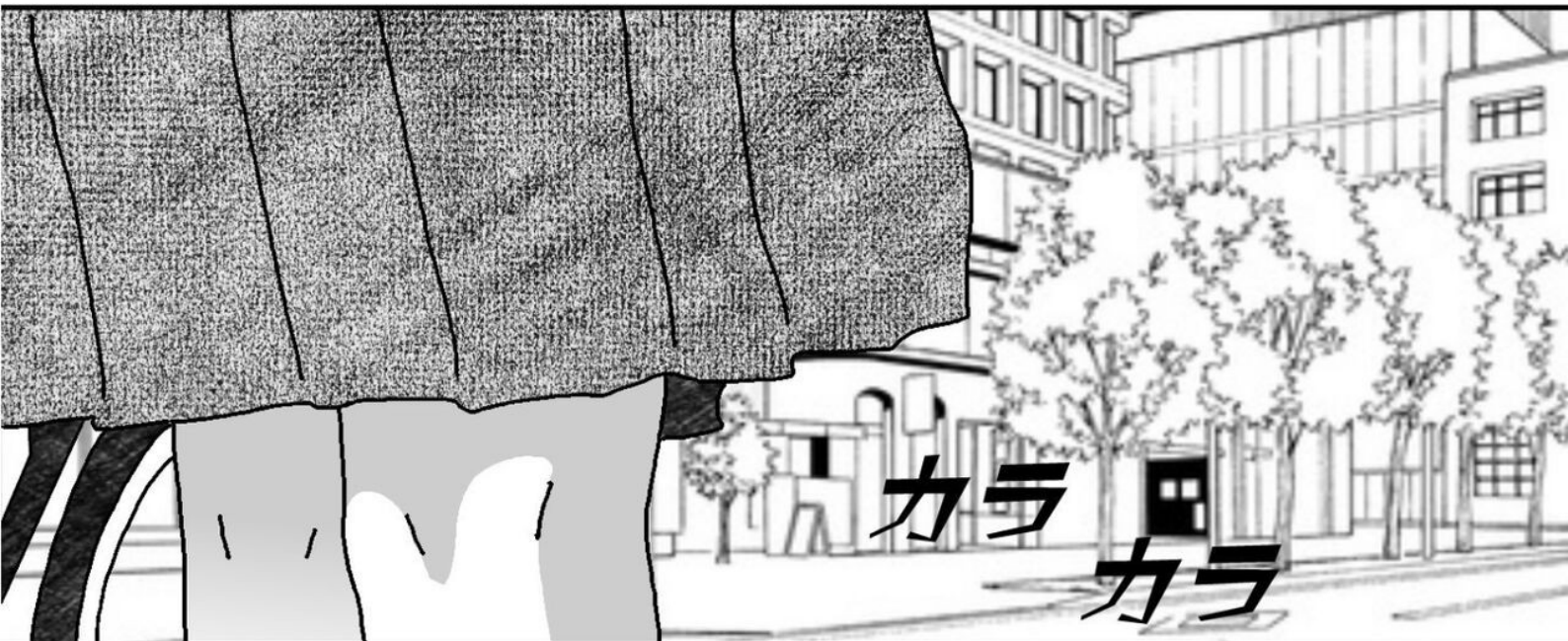
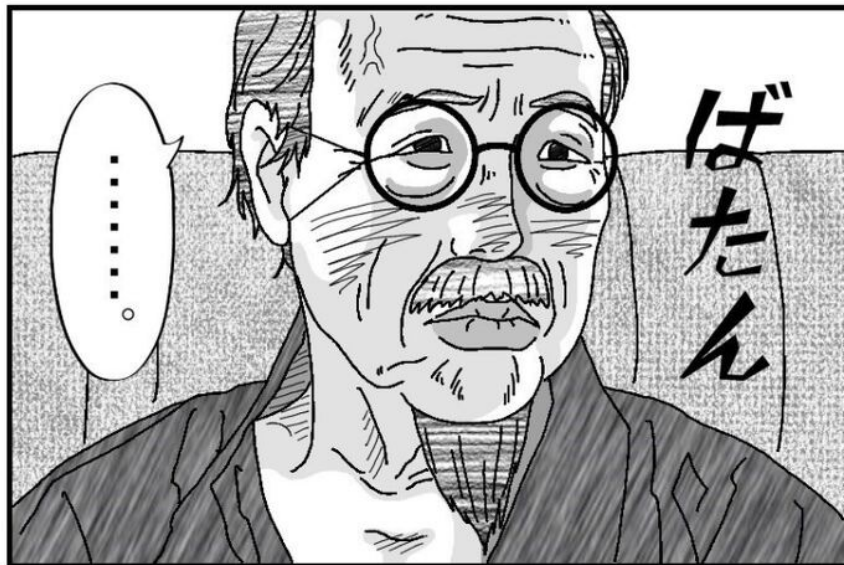


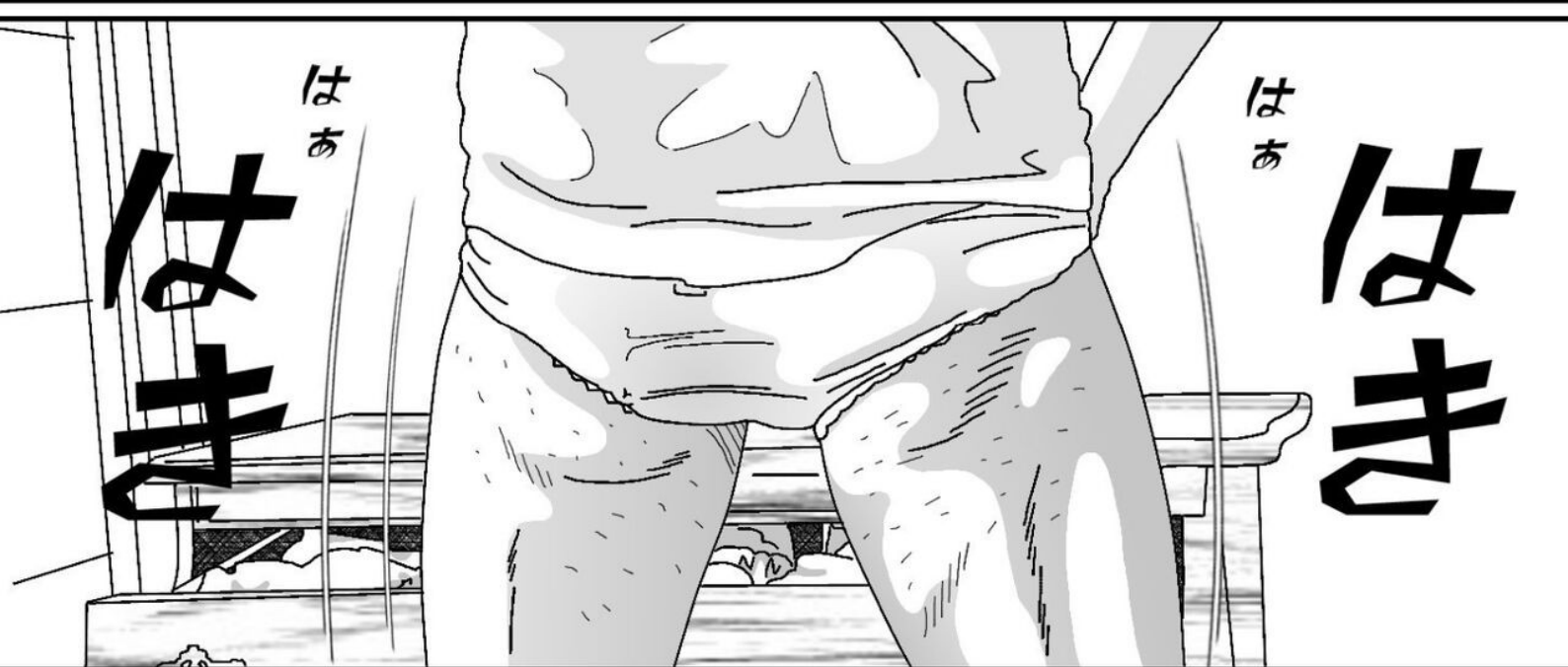




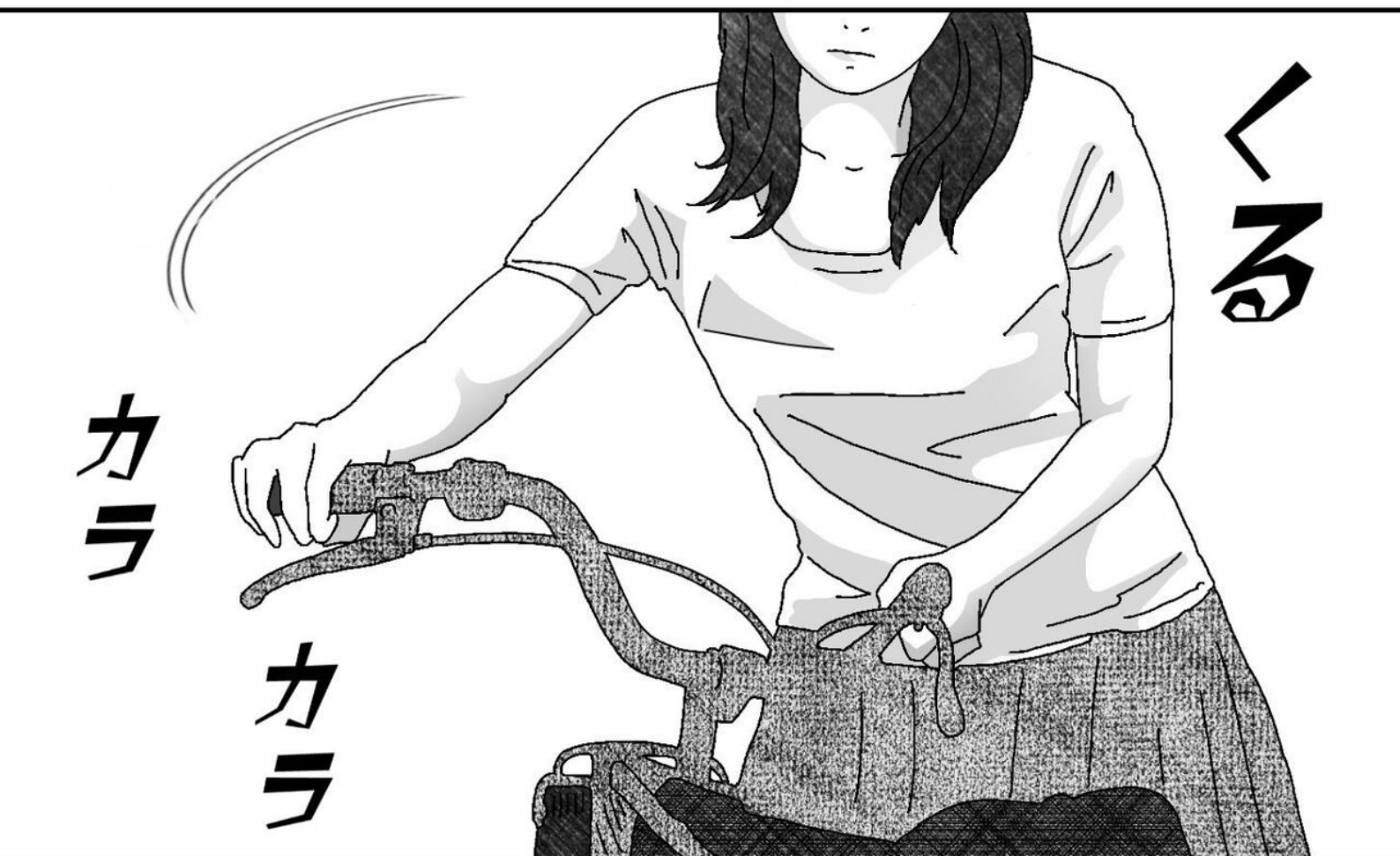
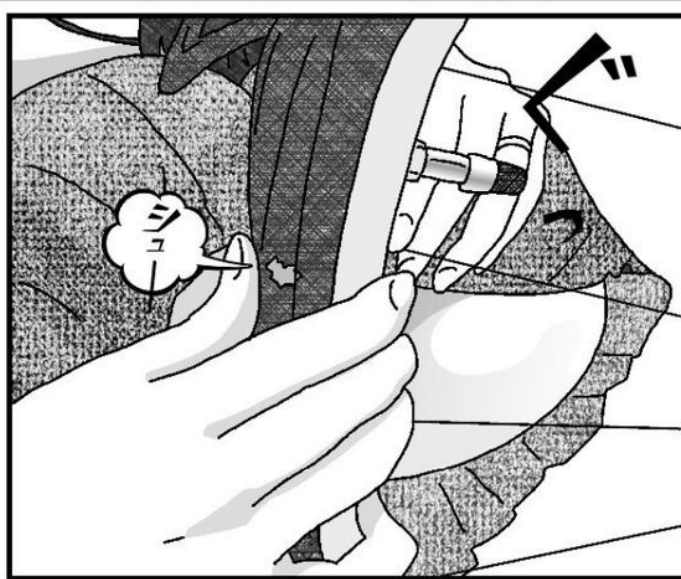


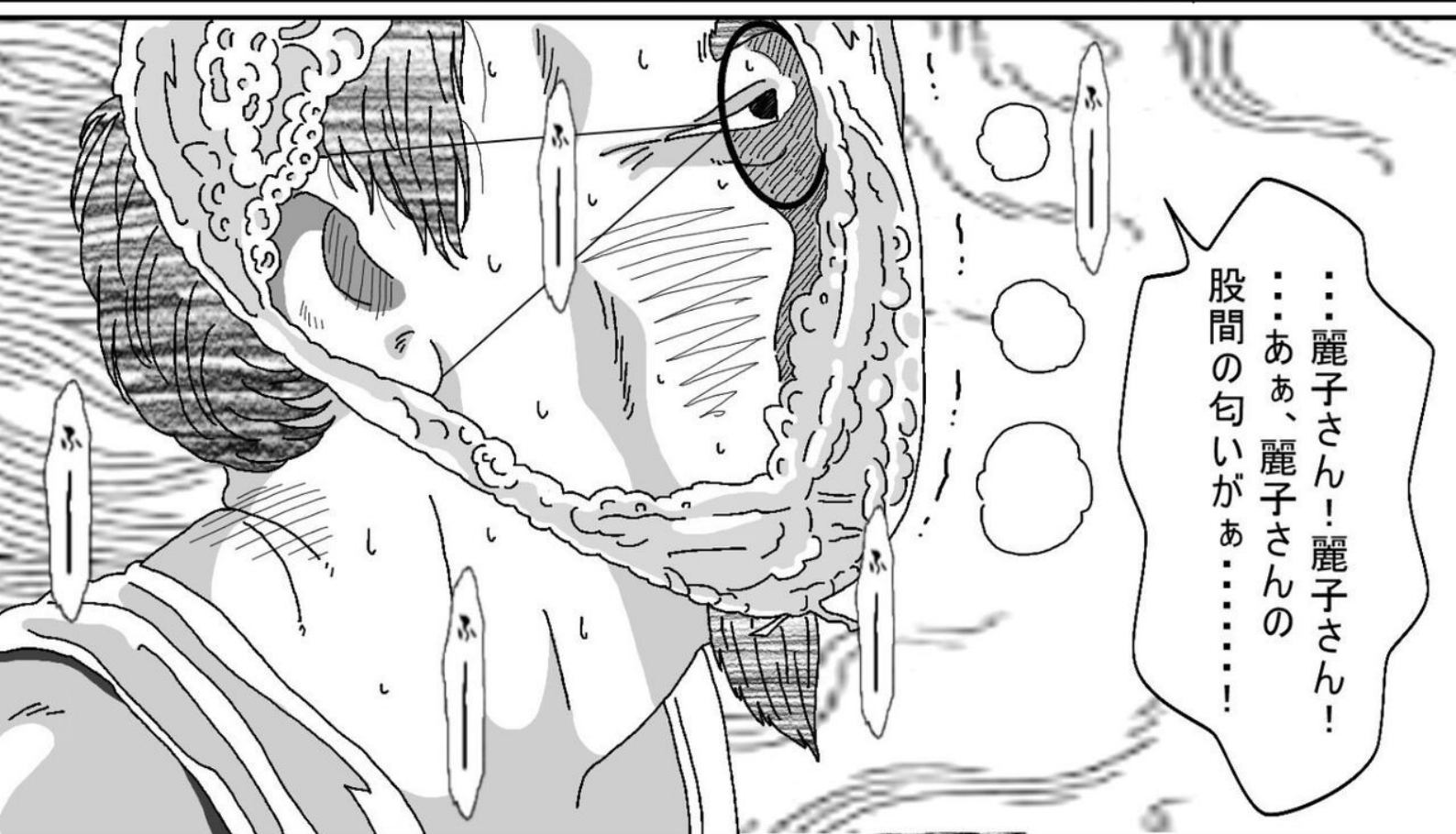




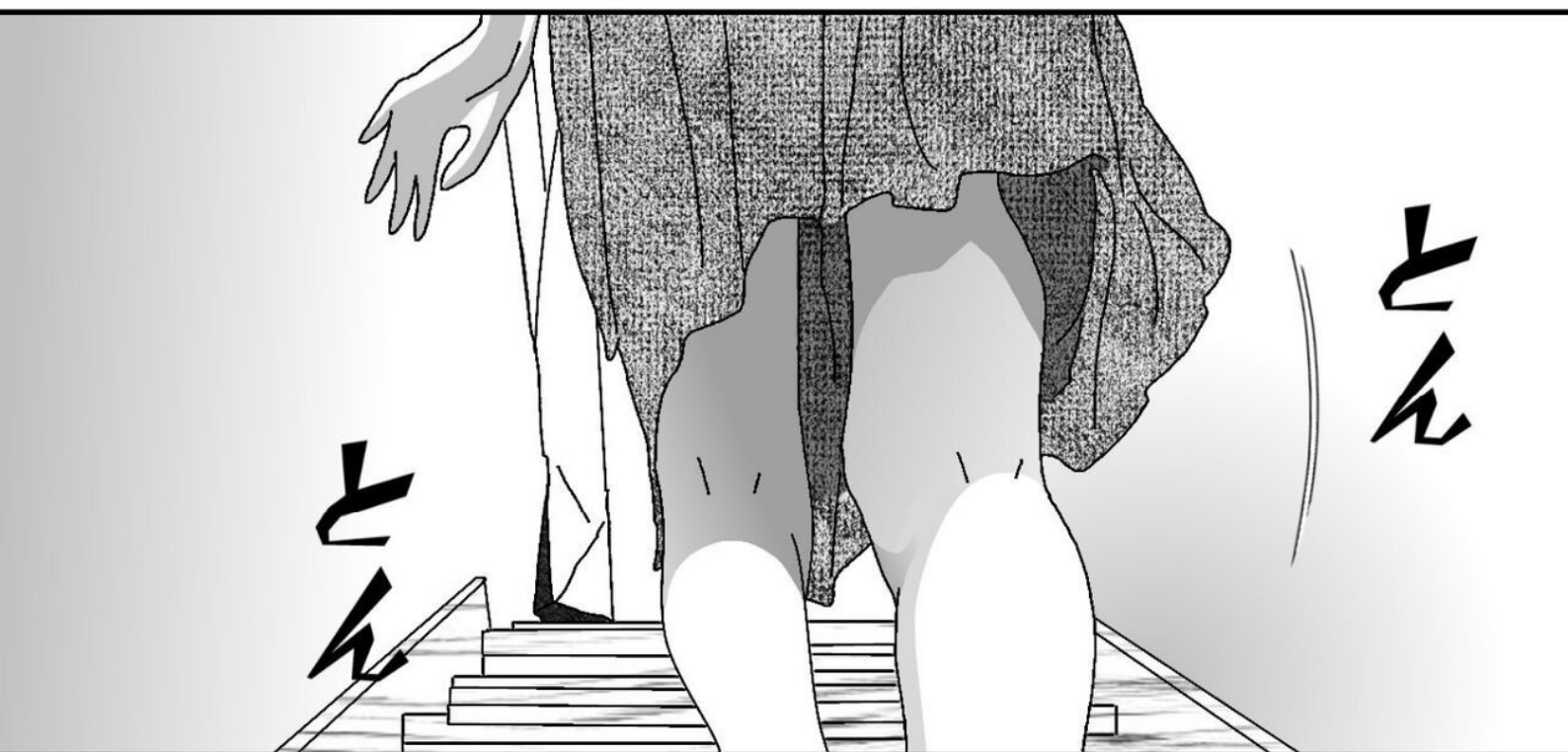


















麗子さん！大丈夫だ
開けてくれ！
もう普通の格好に
なっている！



本当だよ
麗子さん！
開けてくれ！

本当ですか!?



はあ
はあ

びく

.....

.....

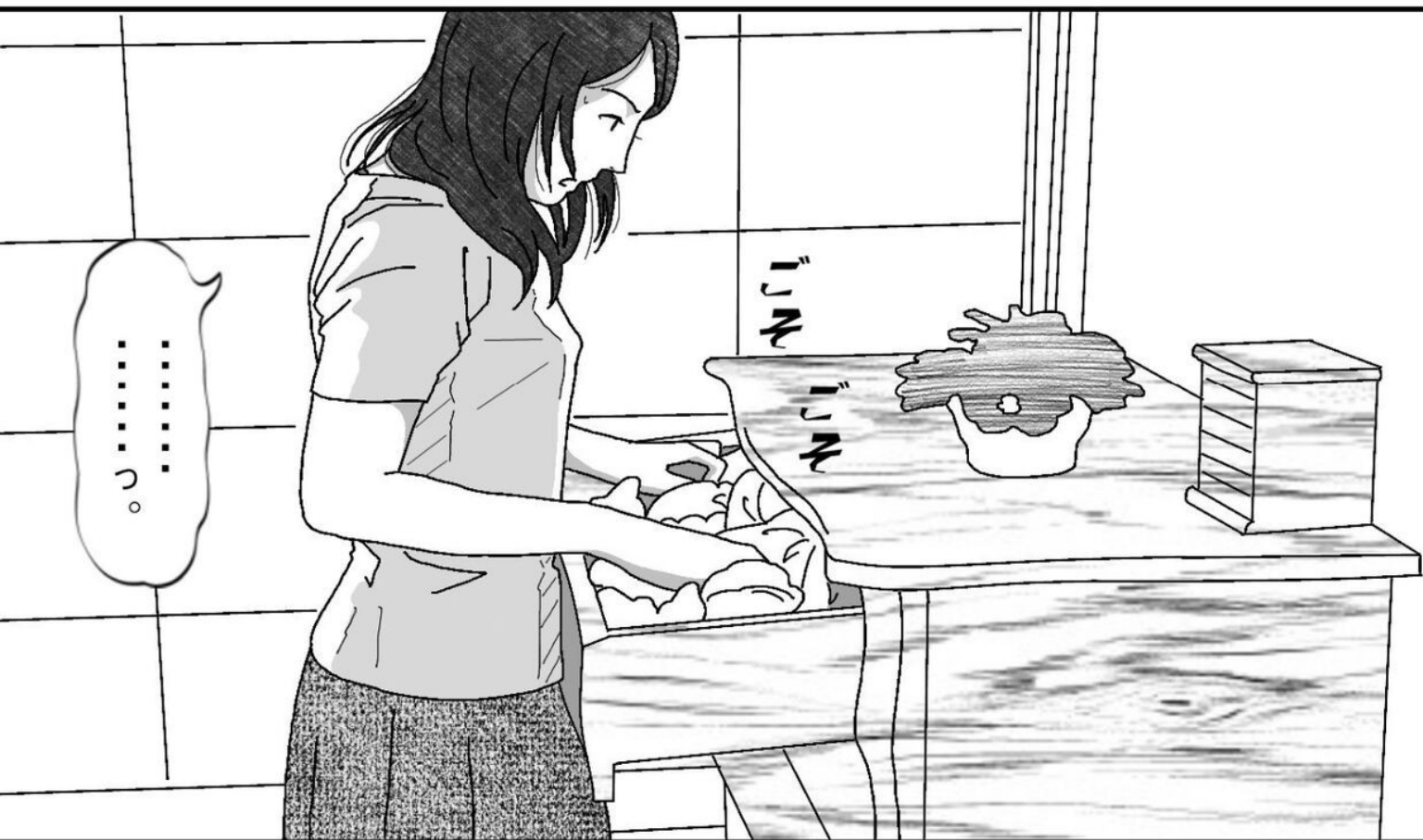




すっ



はっ



いっ

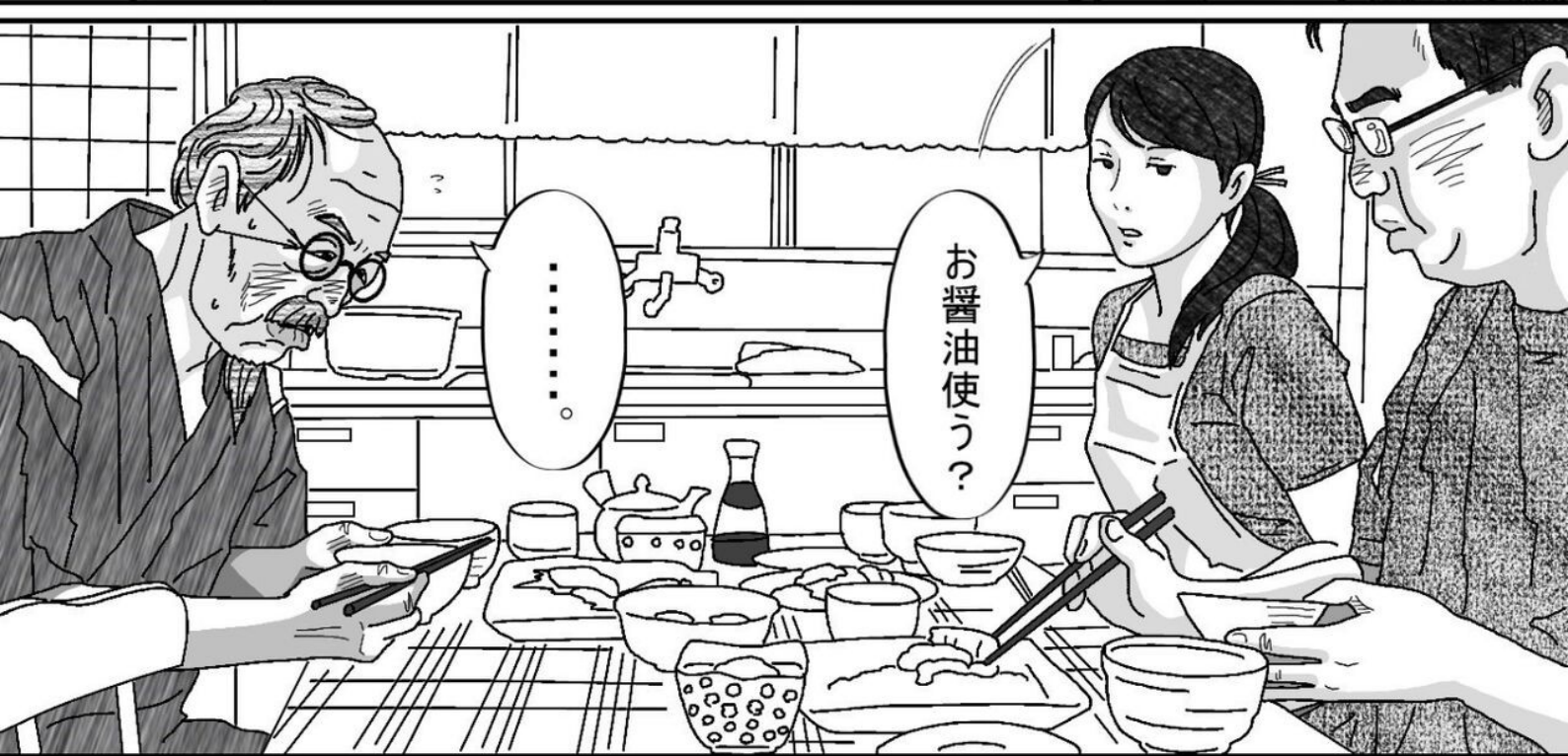
いっ

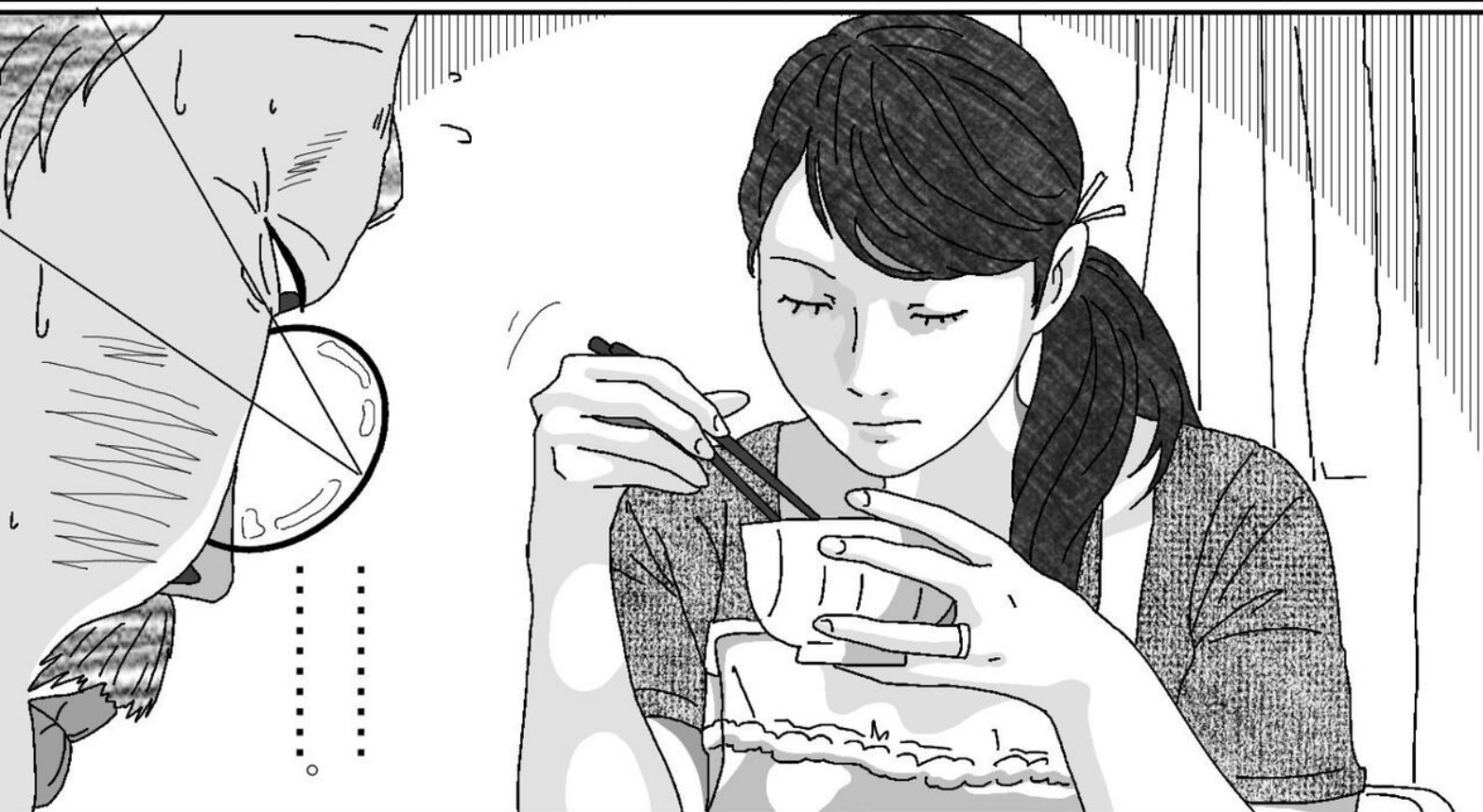
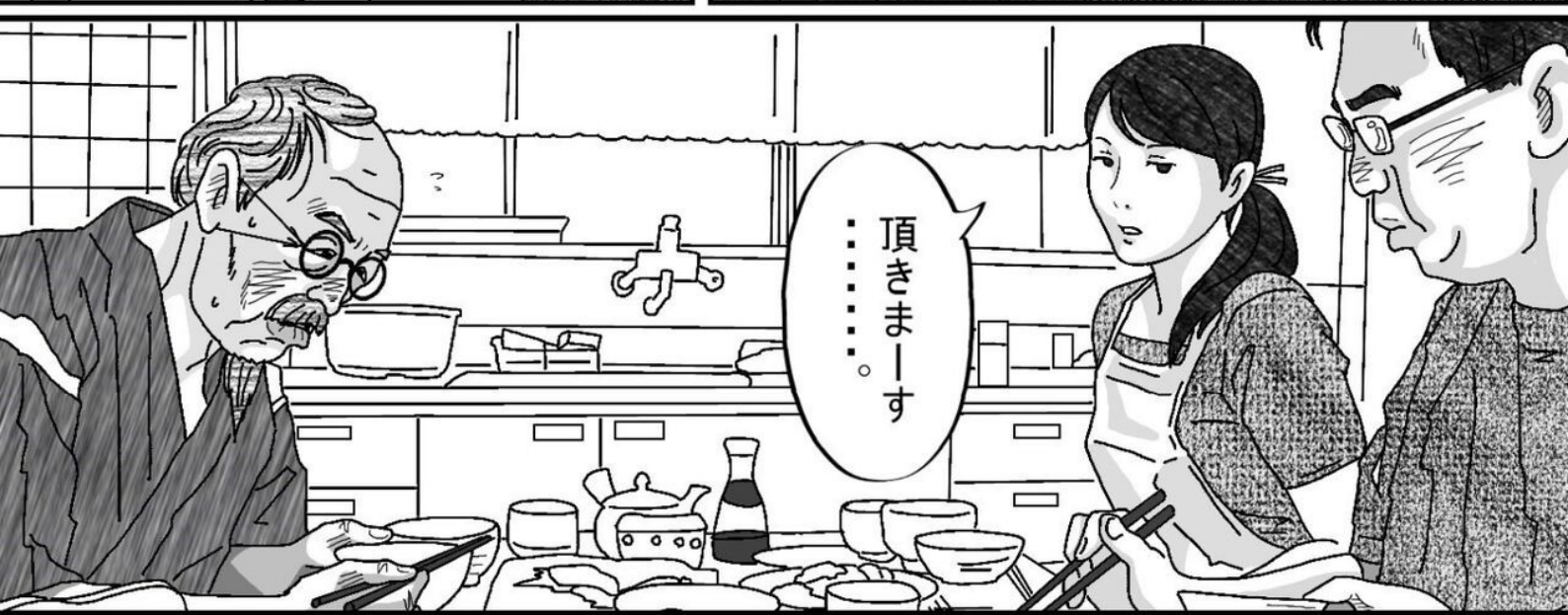
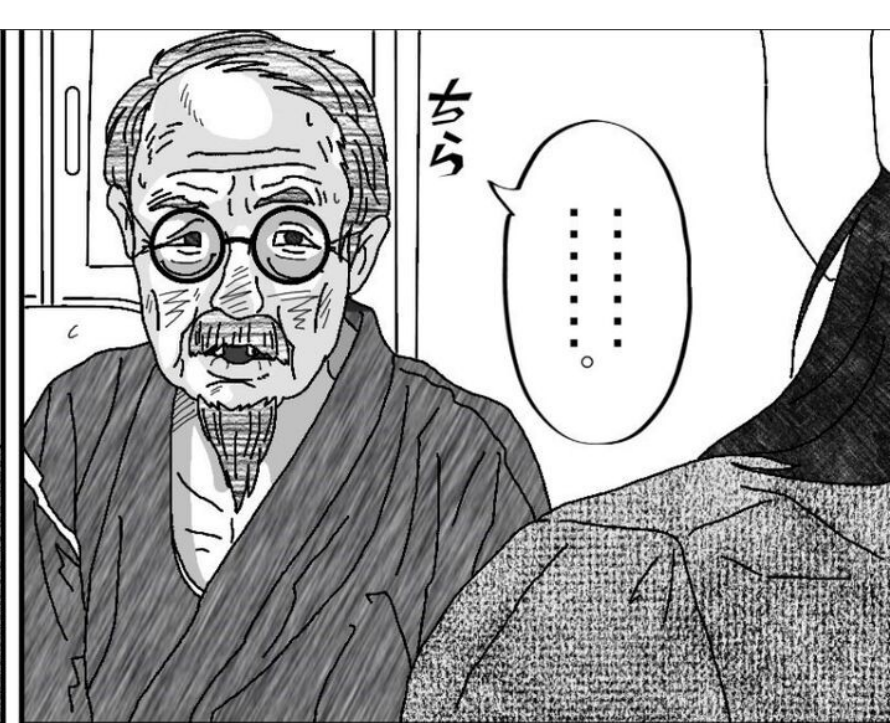
……っ。

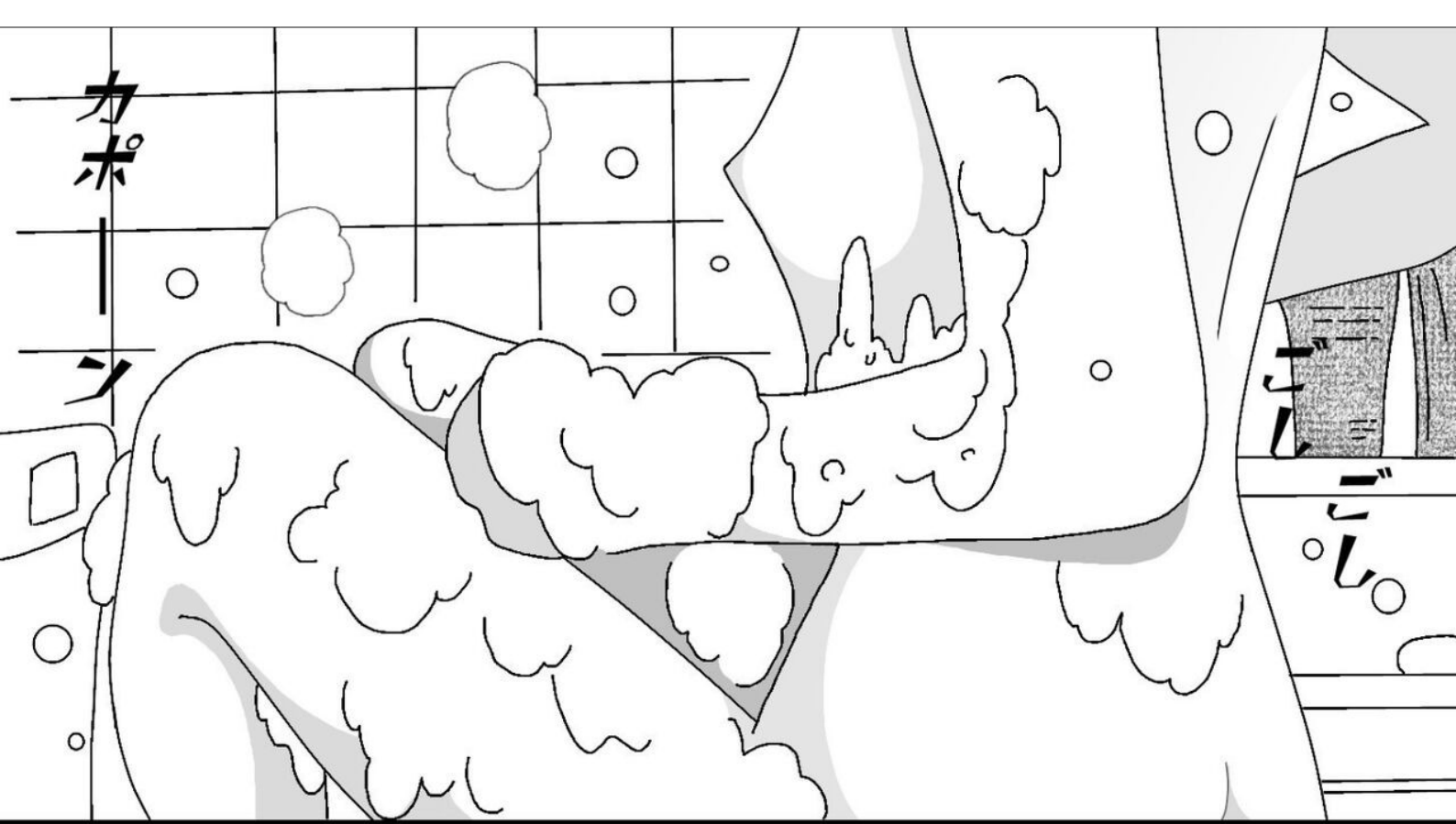


……もうっ！
どういっ事
なのよ……。

はあ







○月×日……。

木曜日、パンツは
白の日……。

今日は大変な
一日だった……。

気まずくて
晩御飯も
喉を通らな
かった……。





麗子さんは、
今日も美しい。

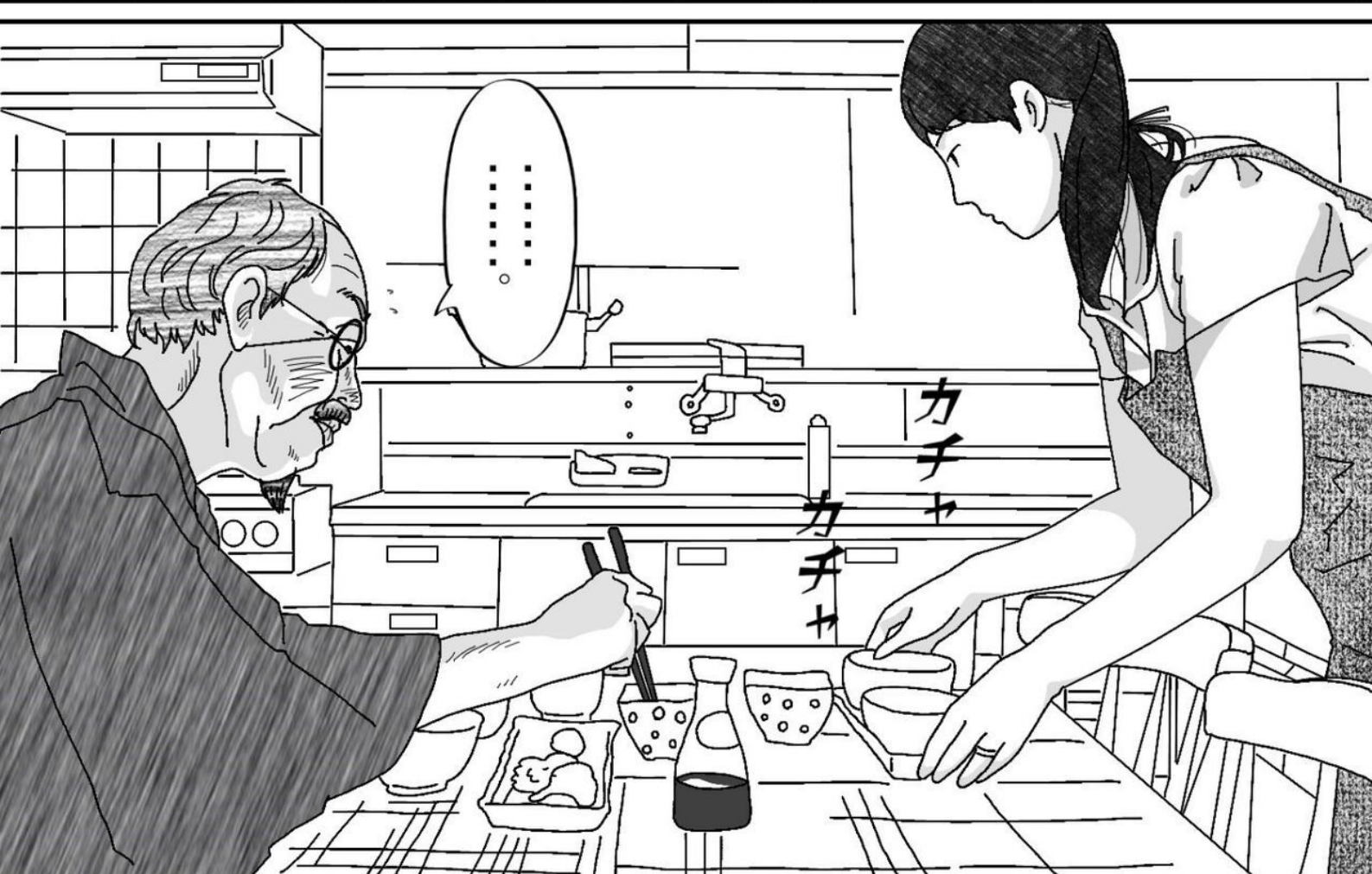
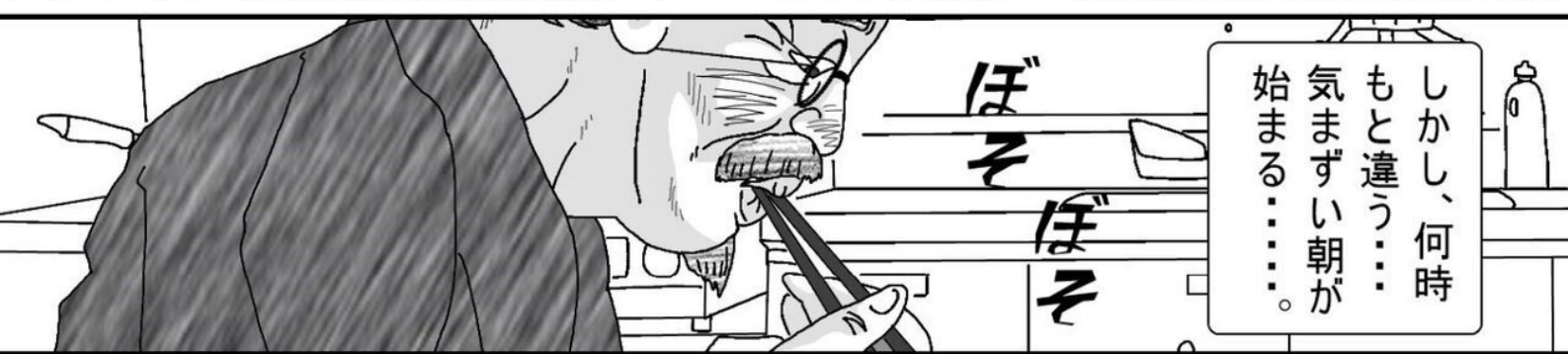


じゃあな……

ぼそ

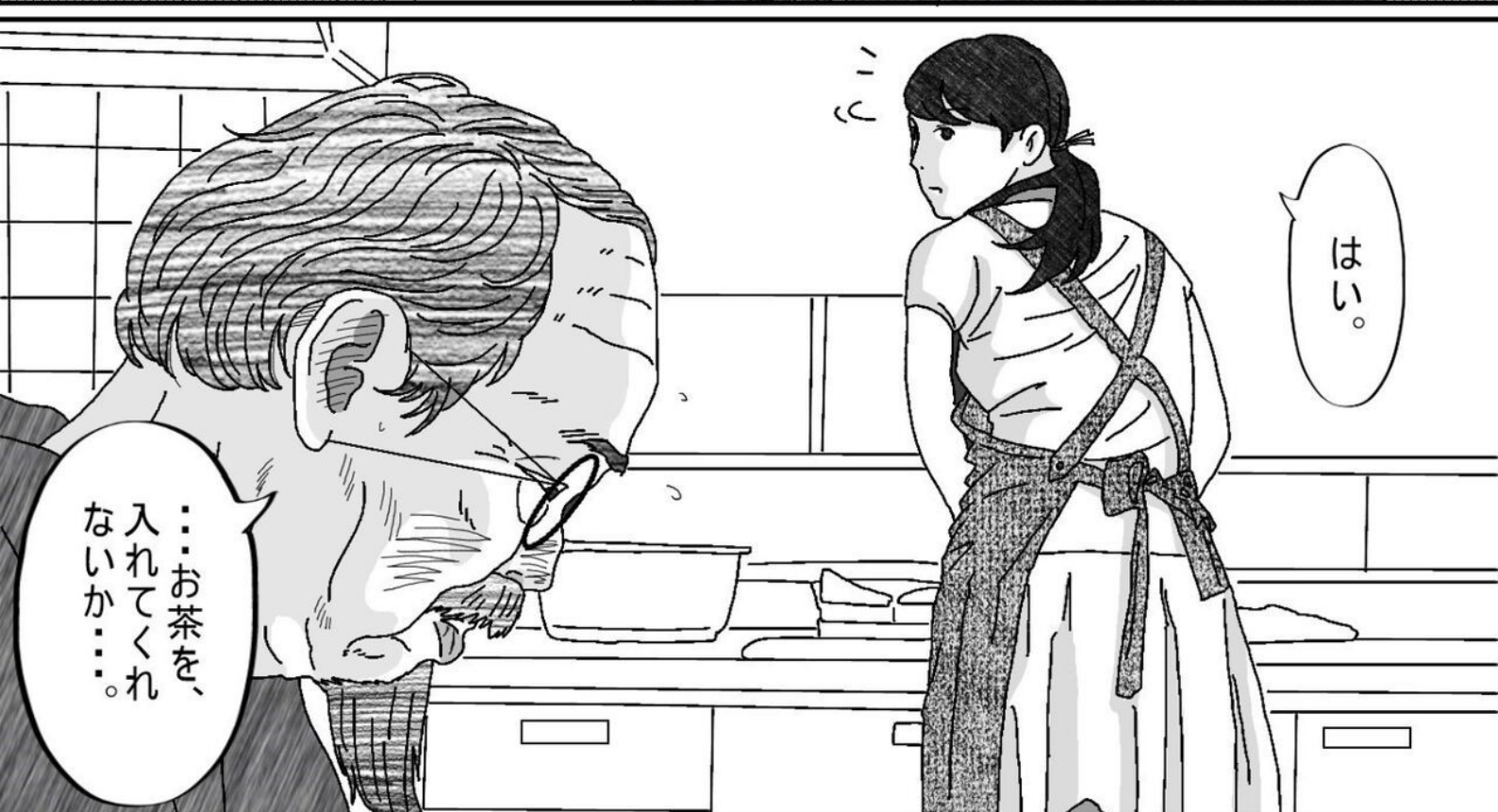
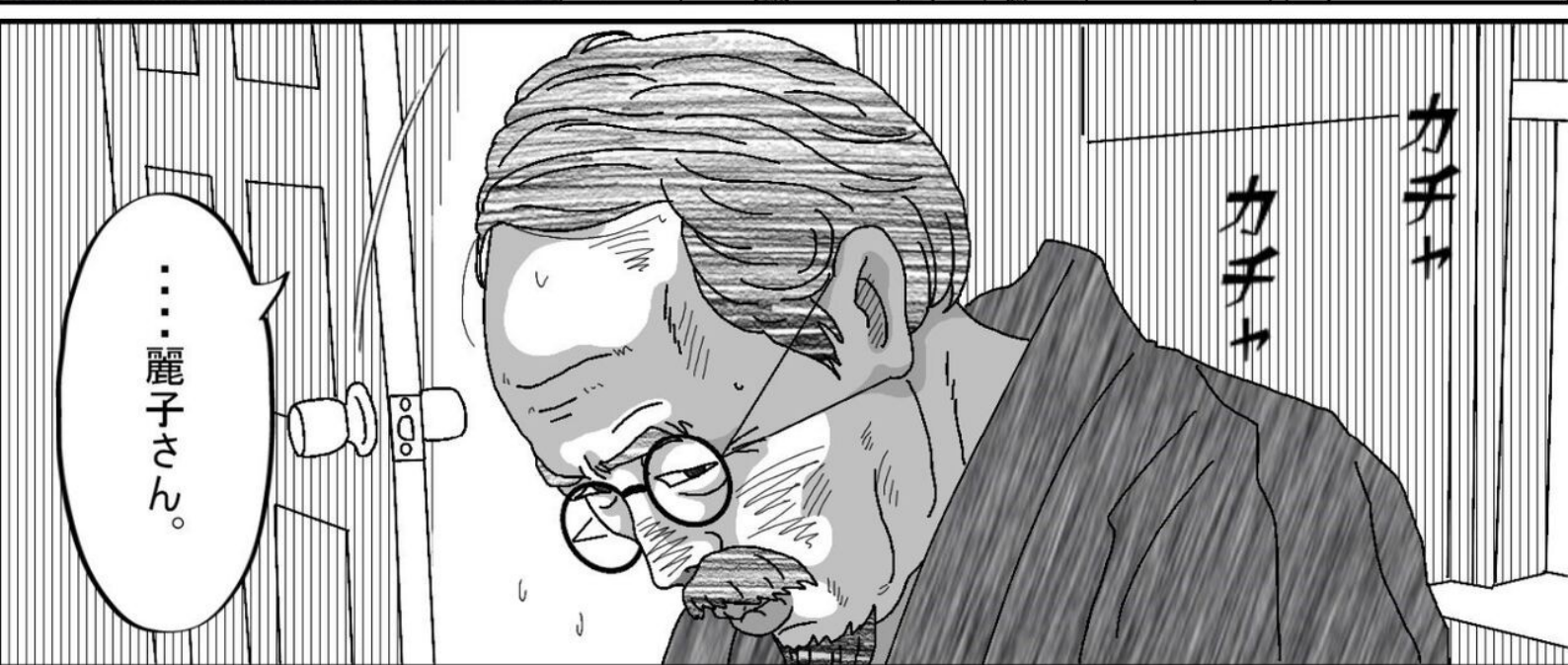
ぼそ

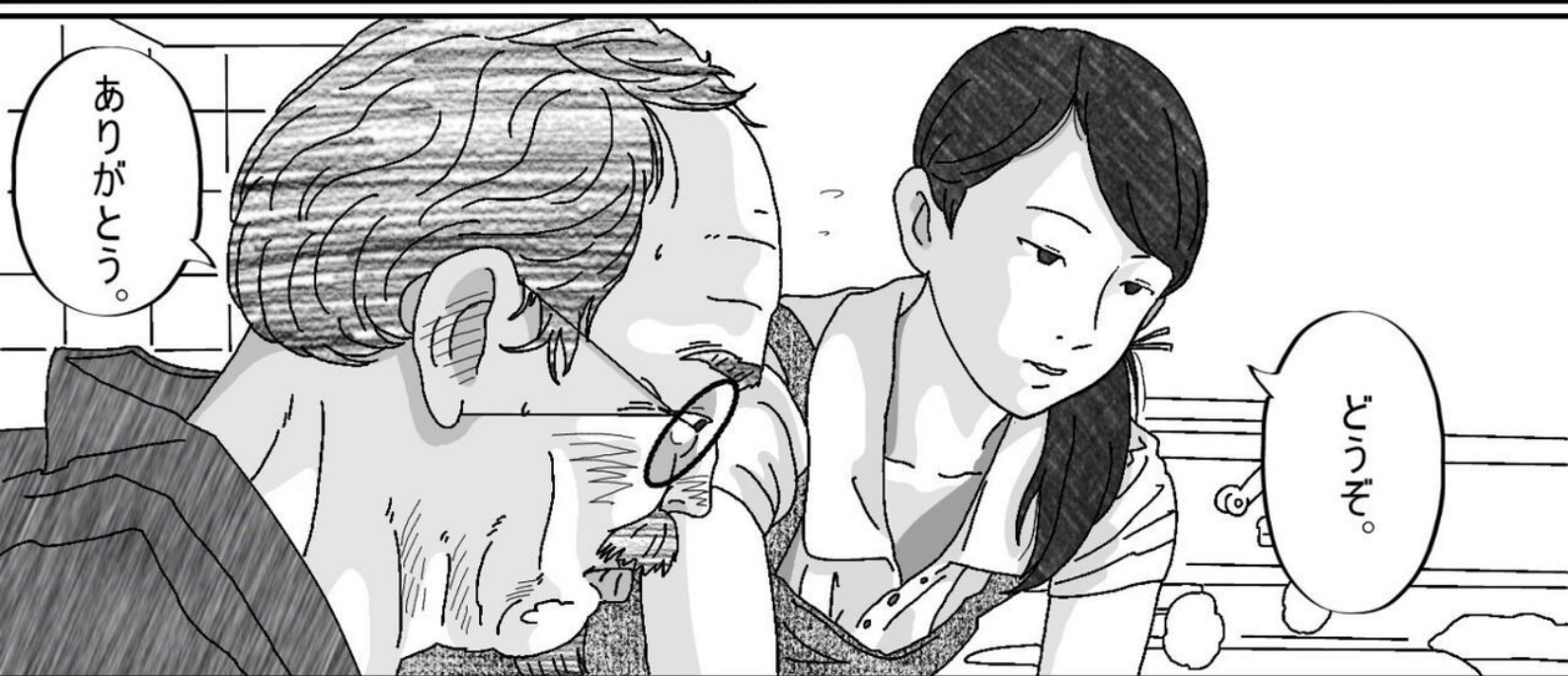
しかし、何時
もと違う……
気まずい朝が
始まる……。



カチャ

カチャ







…昨日の事
だが………！



昨日は自転車
がパンクして……

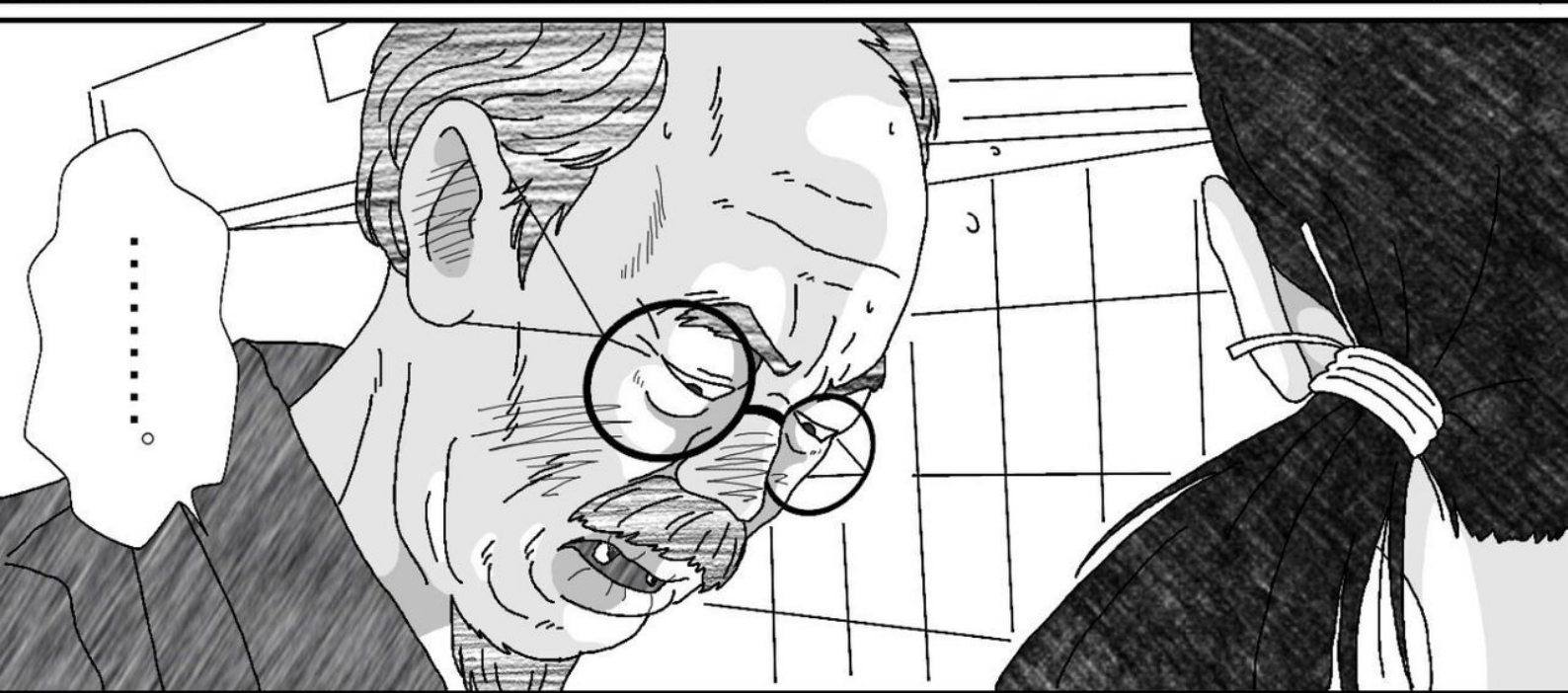
工具箱を探して
いただけです
から……。

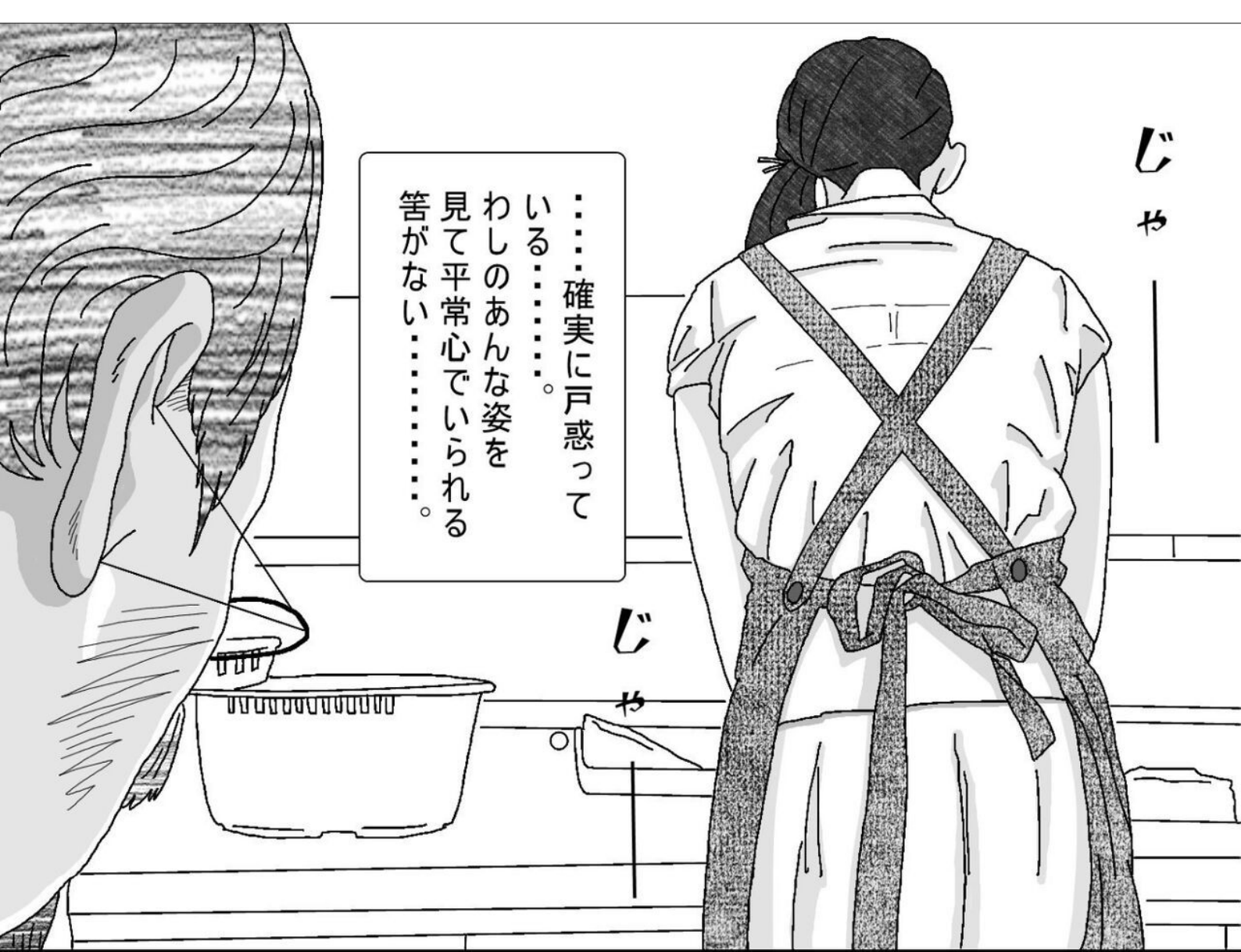


麗子さん！

心配しないでください。
何とも思ってませんし、
他の家でもよくある
んじゃないですか？
そういう事……。

じゃー

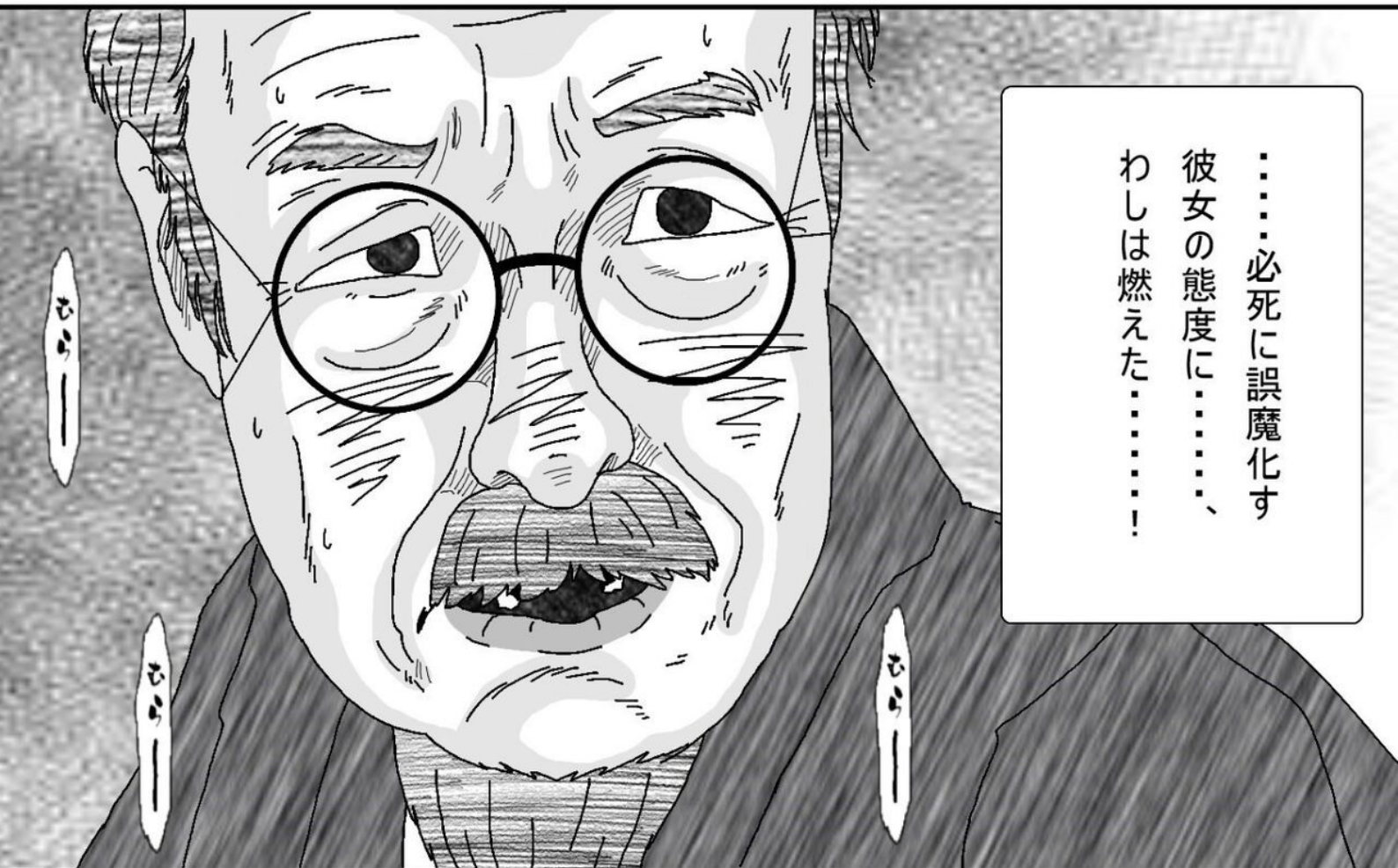




……確実に戸惑って
いる……。
わしのあんな姿を
見て平常心でいられる
筈がない……。

じや

じや



……必死に誤魔化す
彼女の態度に……、
わしは燃えた……！

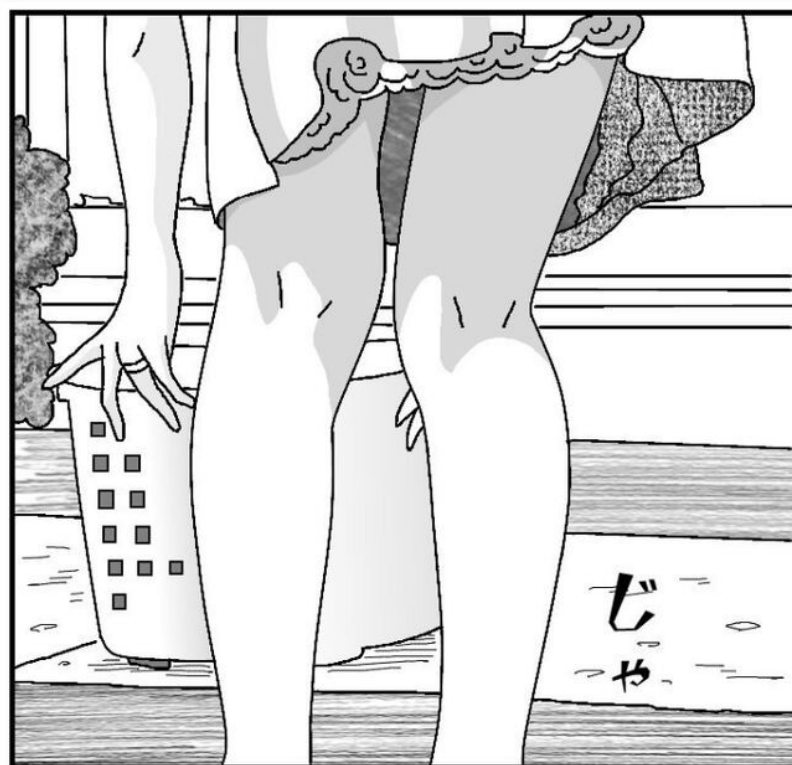
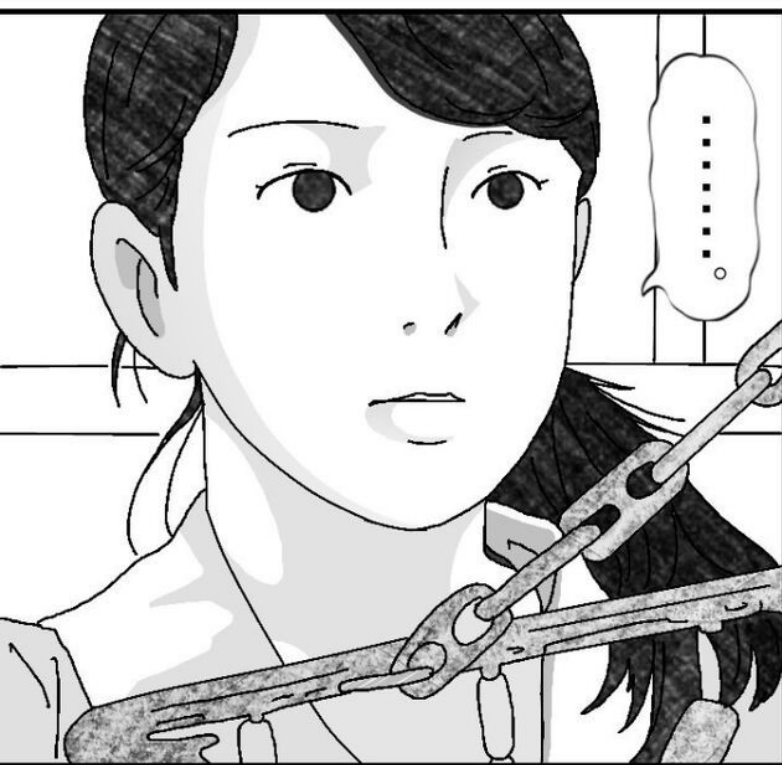
ちりー

ちりー

ちりー



たん



ぢゃ

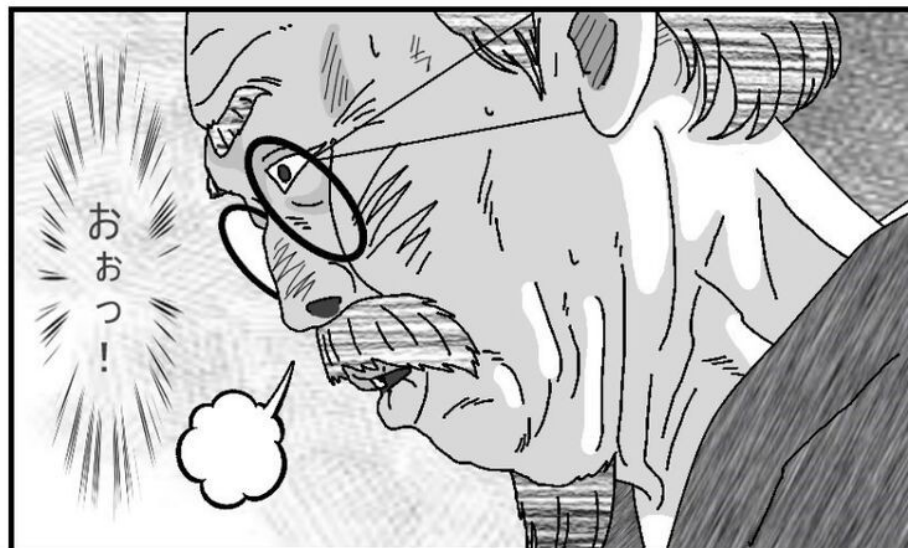
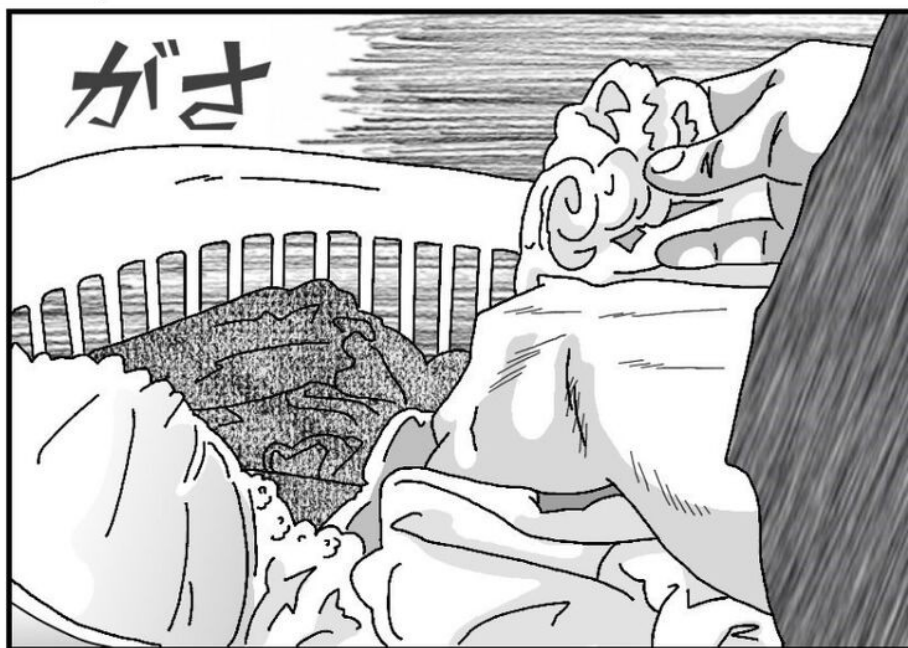


はあ はあ

はあ はあ

：はあ……
もう、お義父さん
たら……

数日後……





○月×日金曜日。

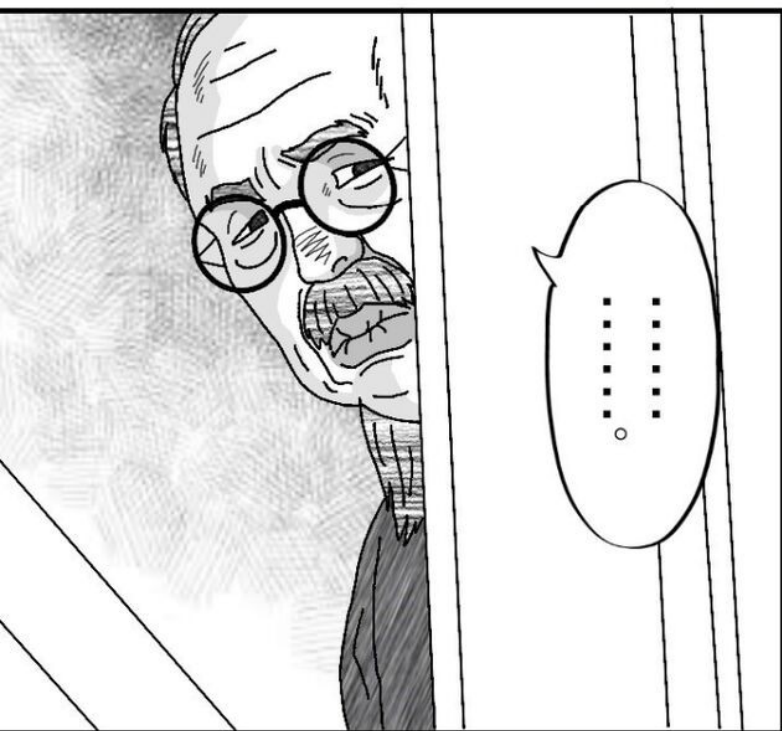


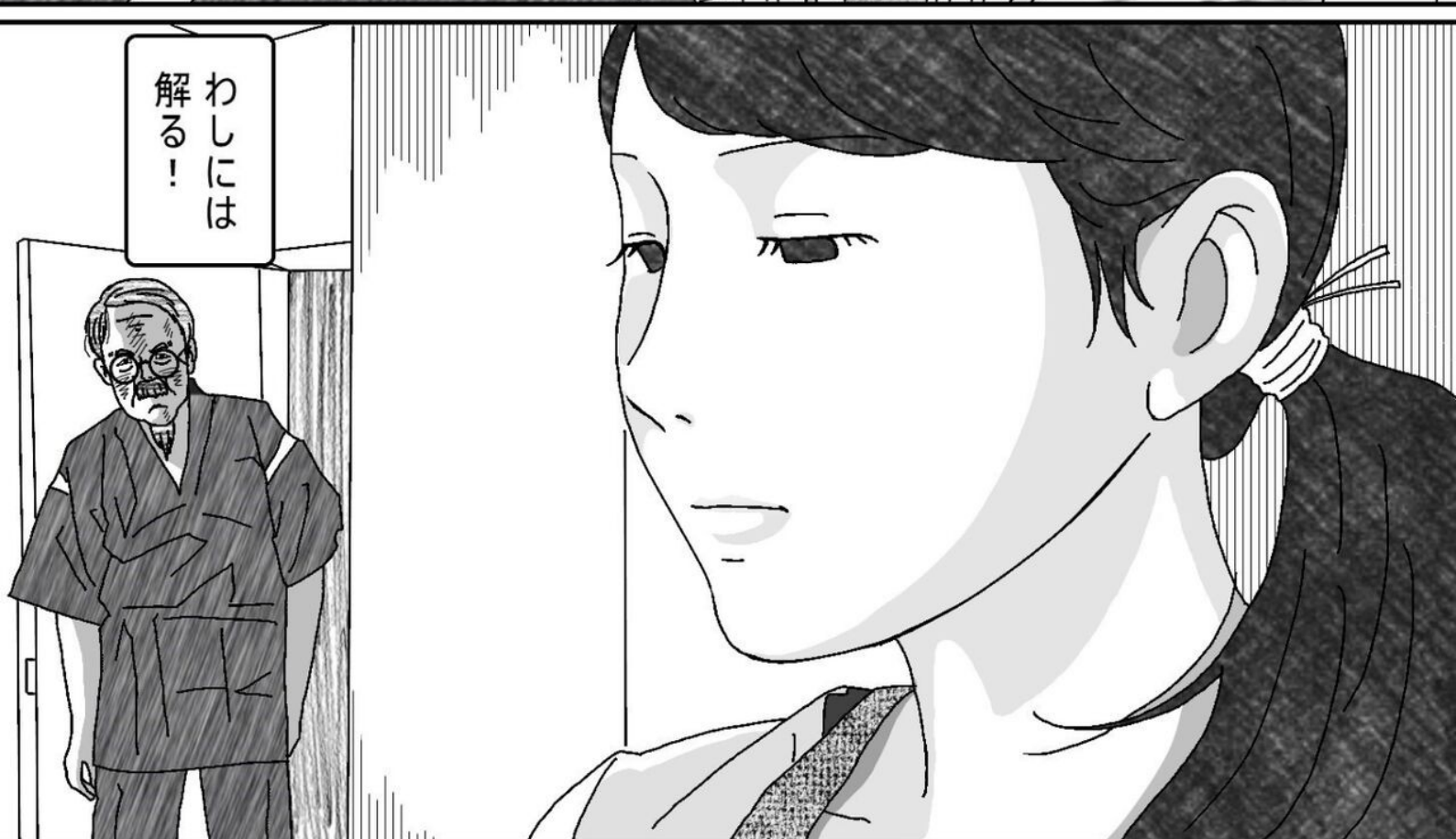
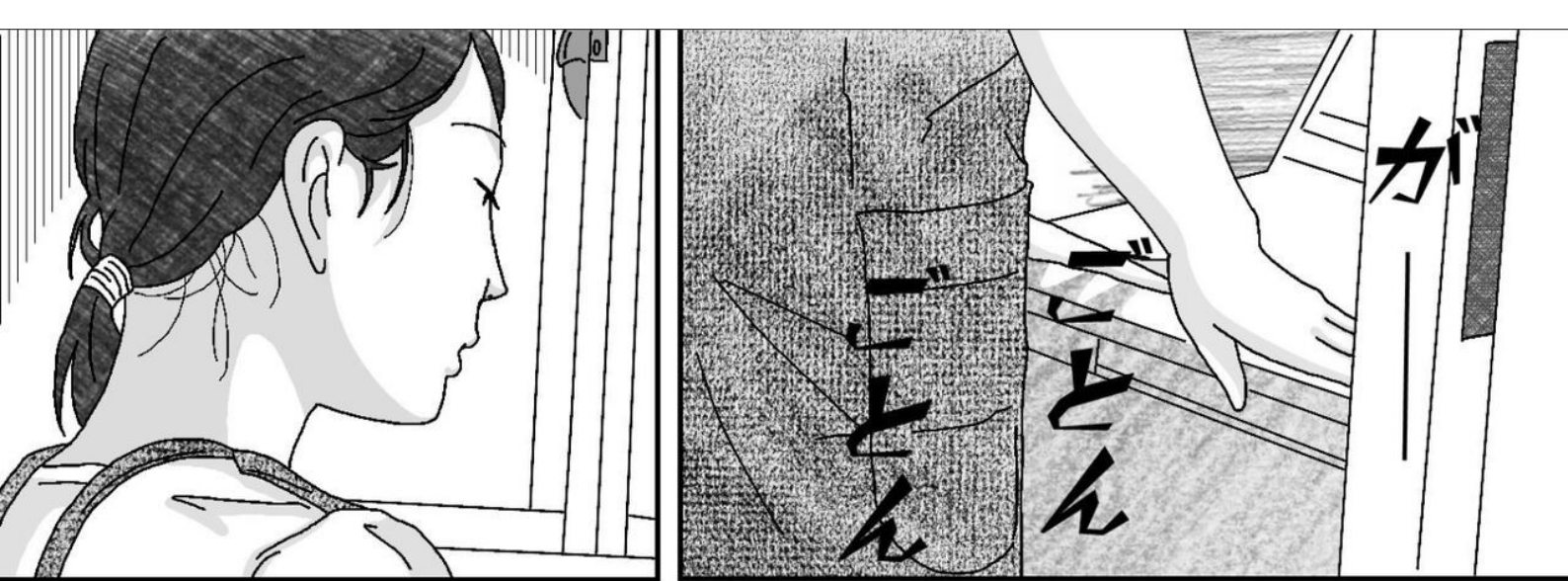
白いパンツの日。
今日は甘い酸味
がかったシミが
付いていた…。

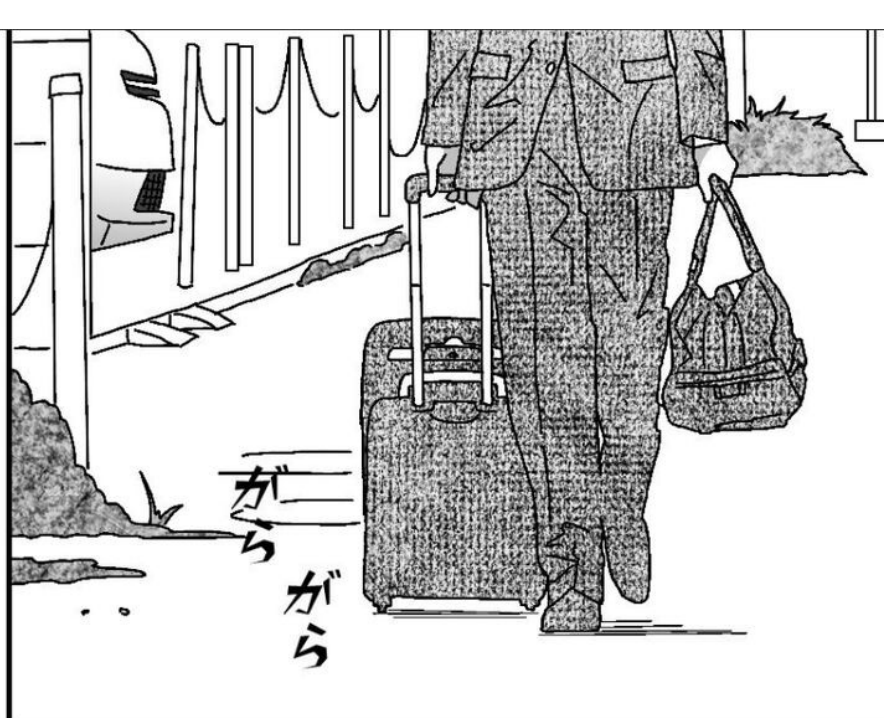
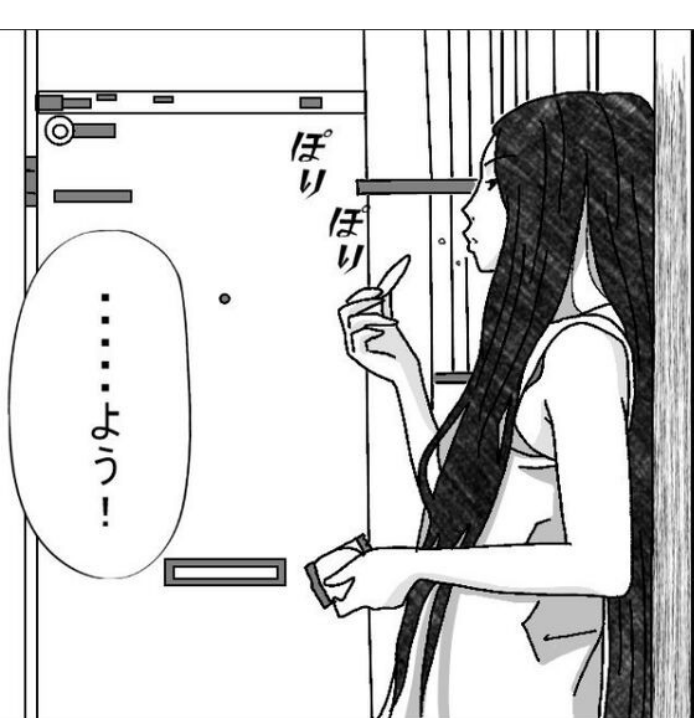


…うゝむ、これは。







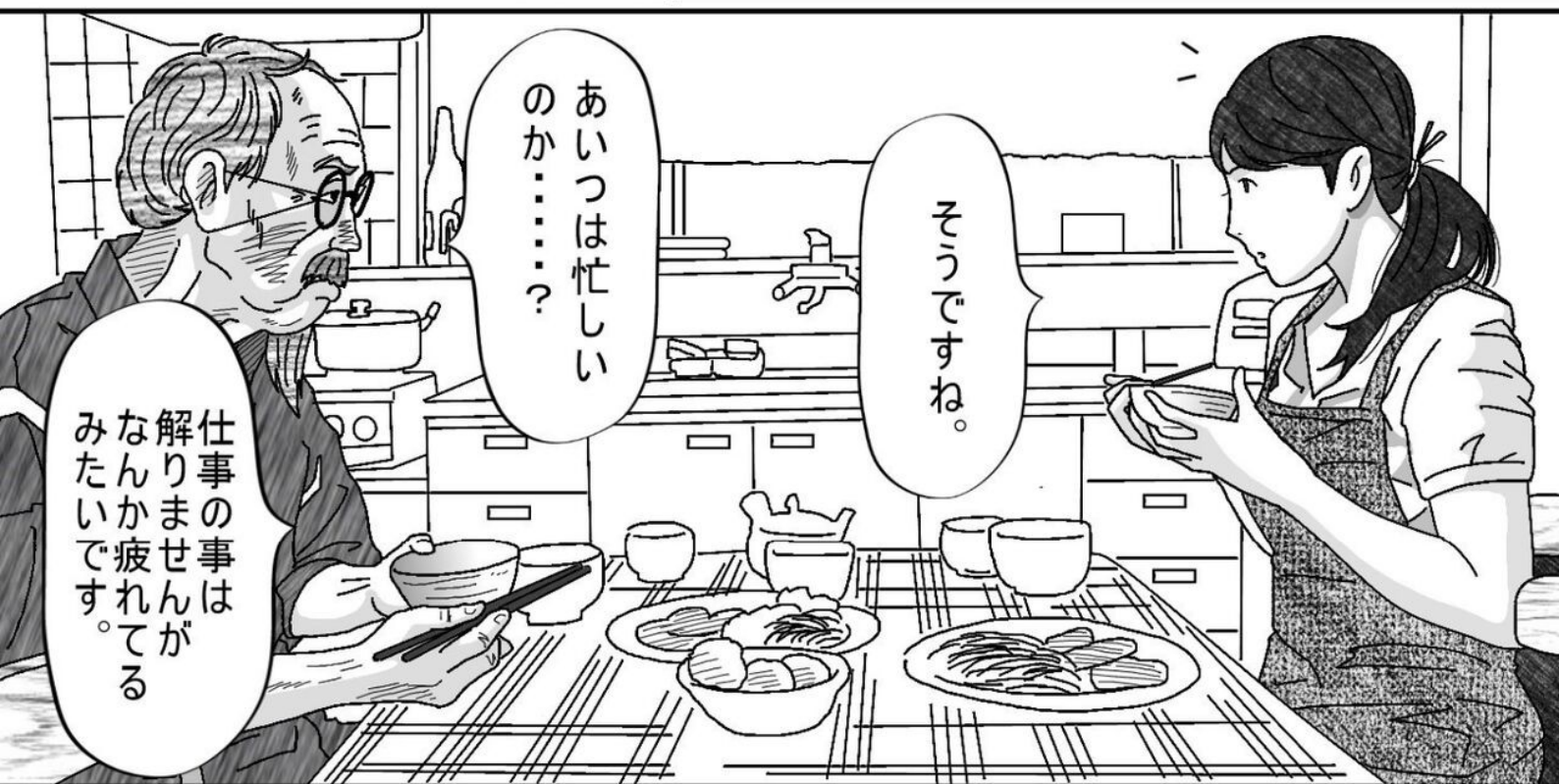




また、
二人きり
だねえ。



じと



あいつは忙しい
のか……？

そうですね。

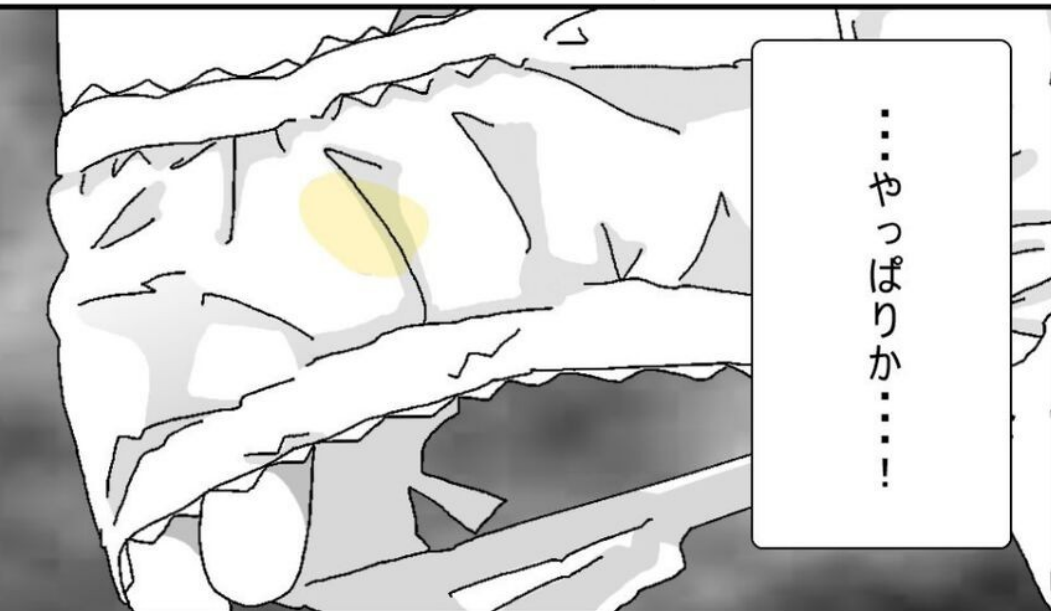
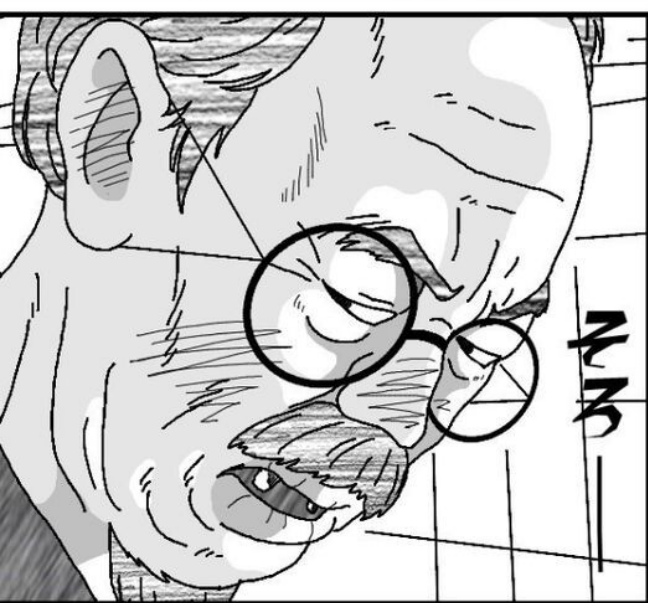
仕事の事は
解りませんが
なんか疲れてる
みたいですよ。

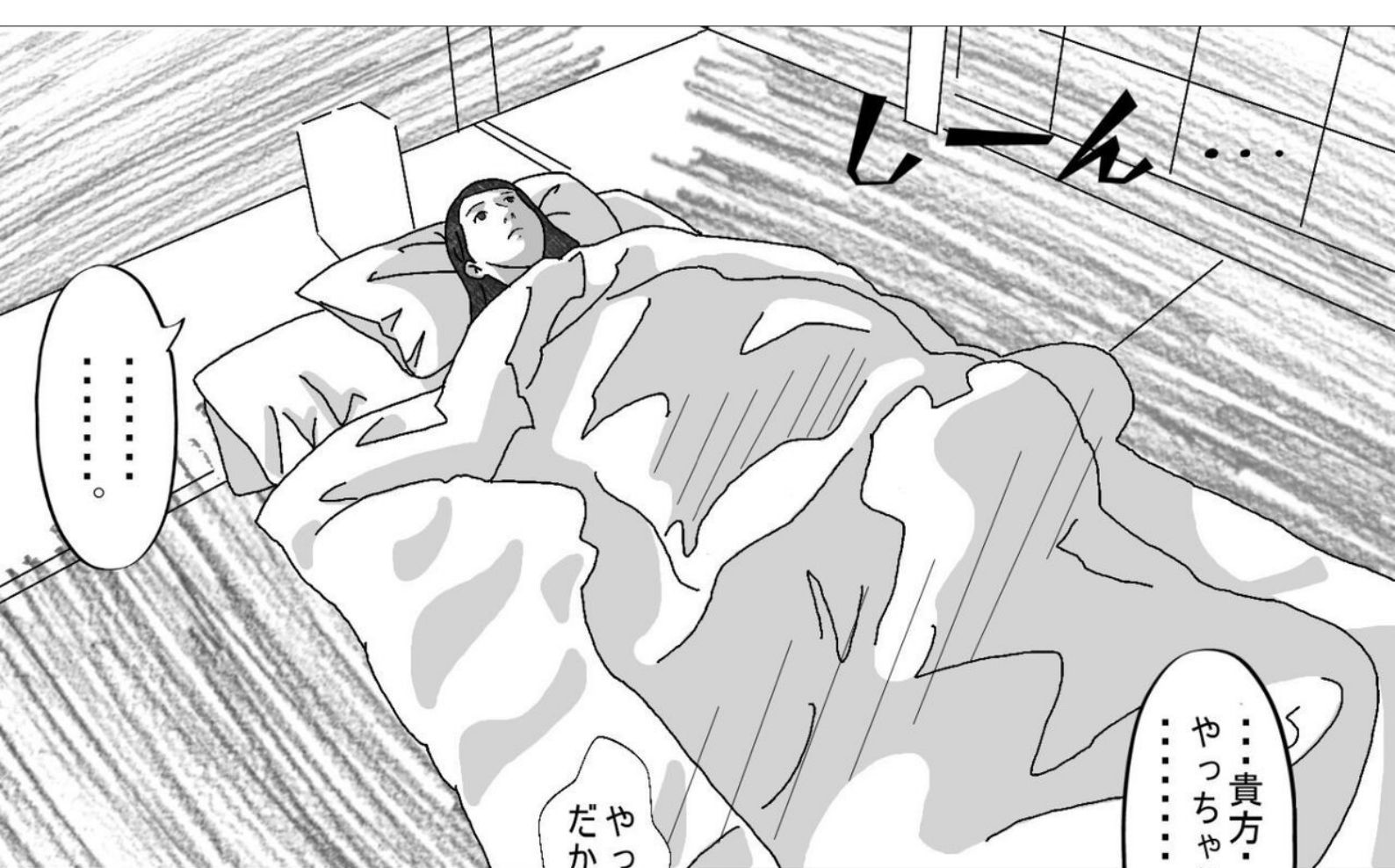


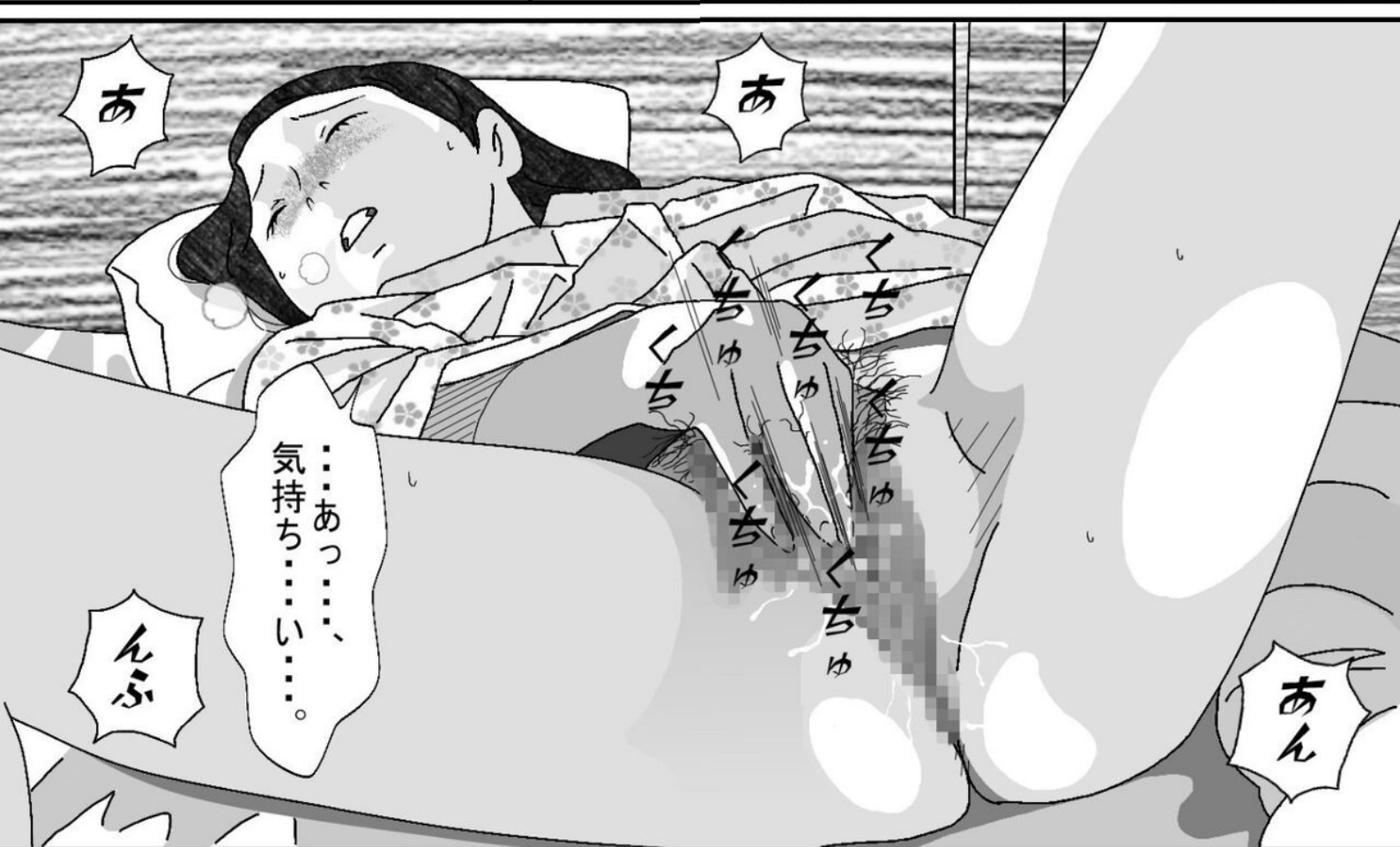
ご馳走様でした、
お風呂入りますね。

食器はそのままに
しておいてください。

ああ……













そうか、
分かった！
あんたが心配
なんじゃ！

はあ！
チクショウ！
お休み……！



はあ

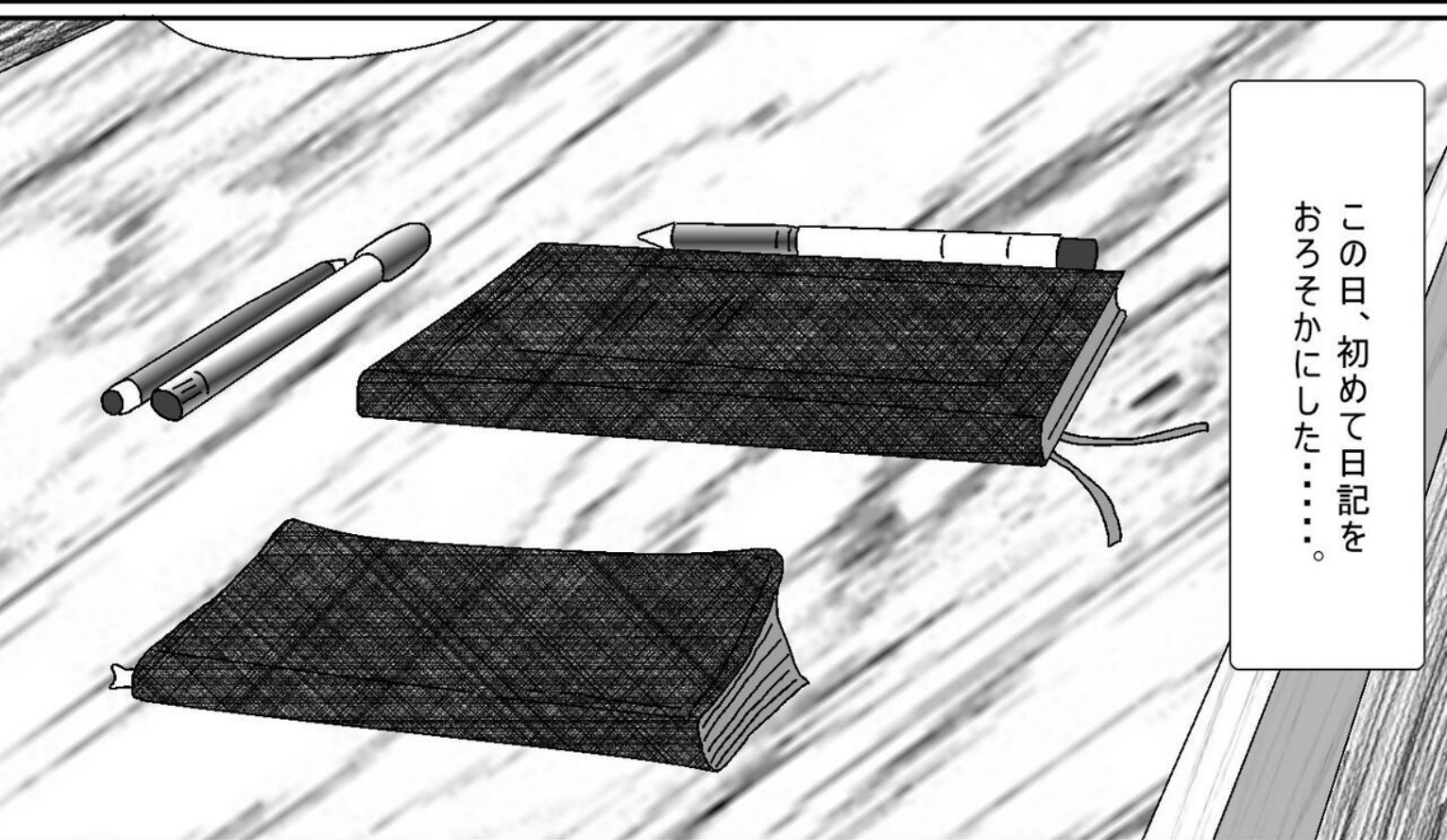
はあ

……
。



……
うう……
。

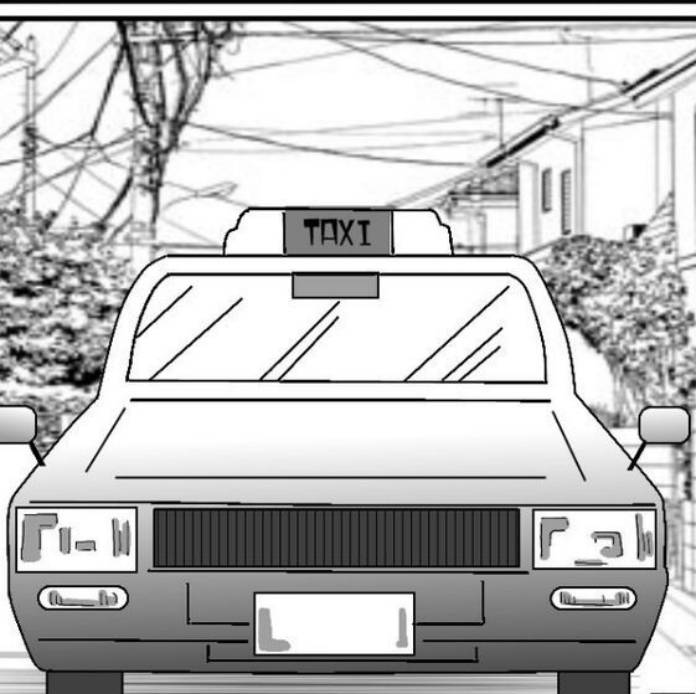
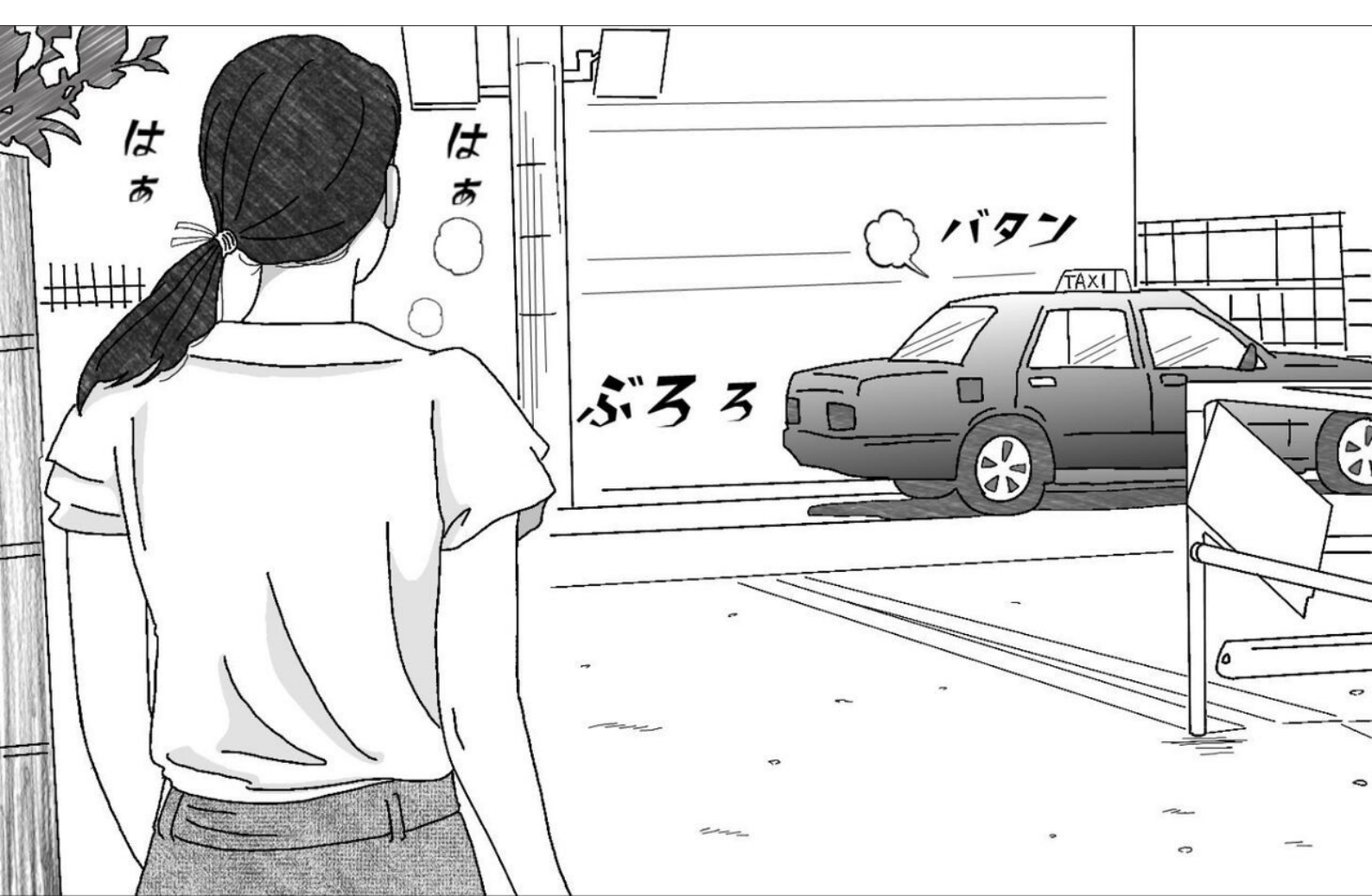
ずる
……

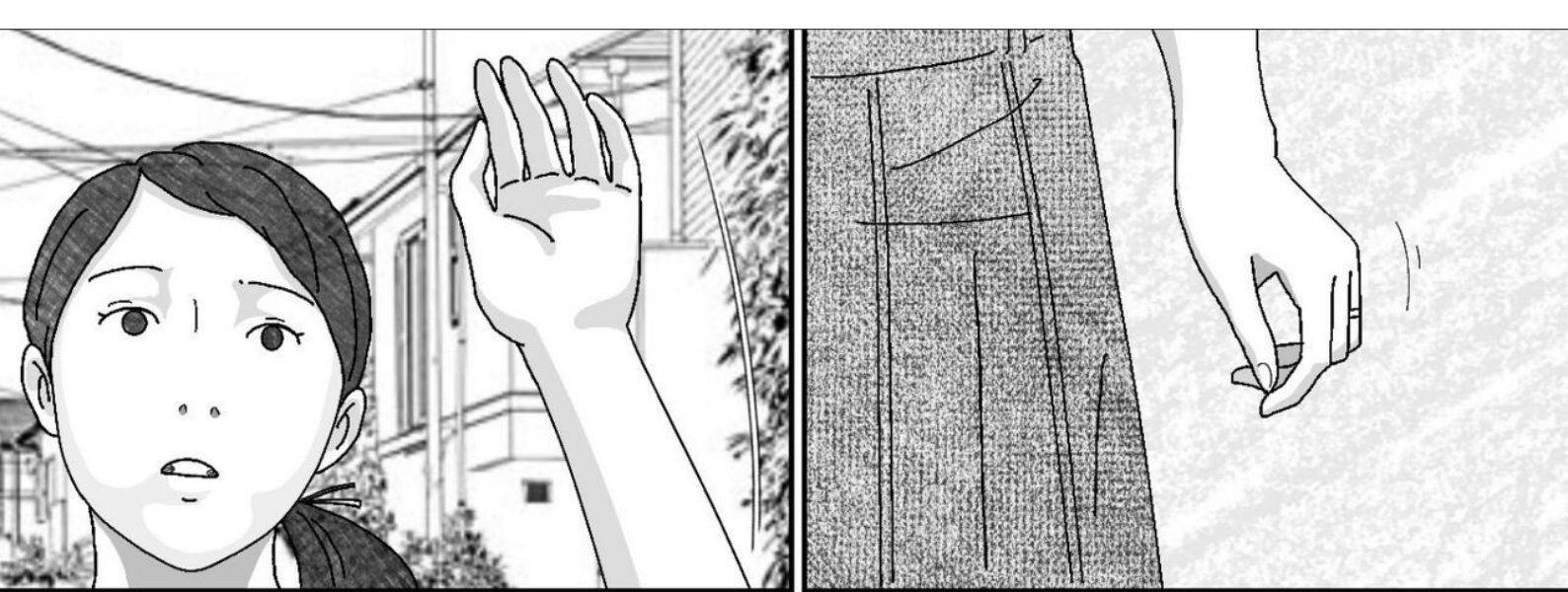


そして翌週...













麗子さんが家に来て
三年が過ぎた。
こんなに気立ての良い
美人の嫁を連れて来る
とは我が息子ながら
感謝している。

……だが、息子が
麗子さんを悲しませ
て居るといふのなら
親の私が正さないと
いけない。



それなのに息子を
しかるにしかれない
私が居るのです。
麗子さんへの込上げて
来る欲望……。

マグマのように、
今にも噴火寸前で
もう親であろうが
なんだろうが
麗子さんとセックス
がしたい。



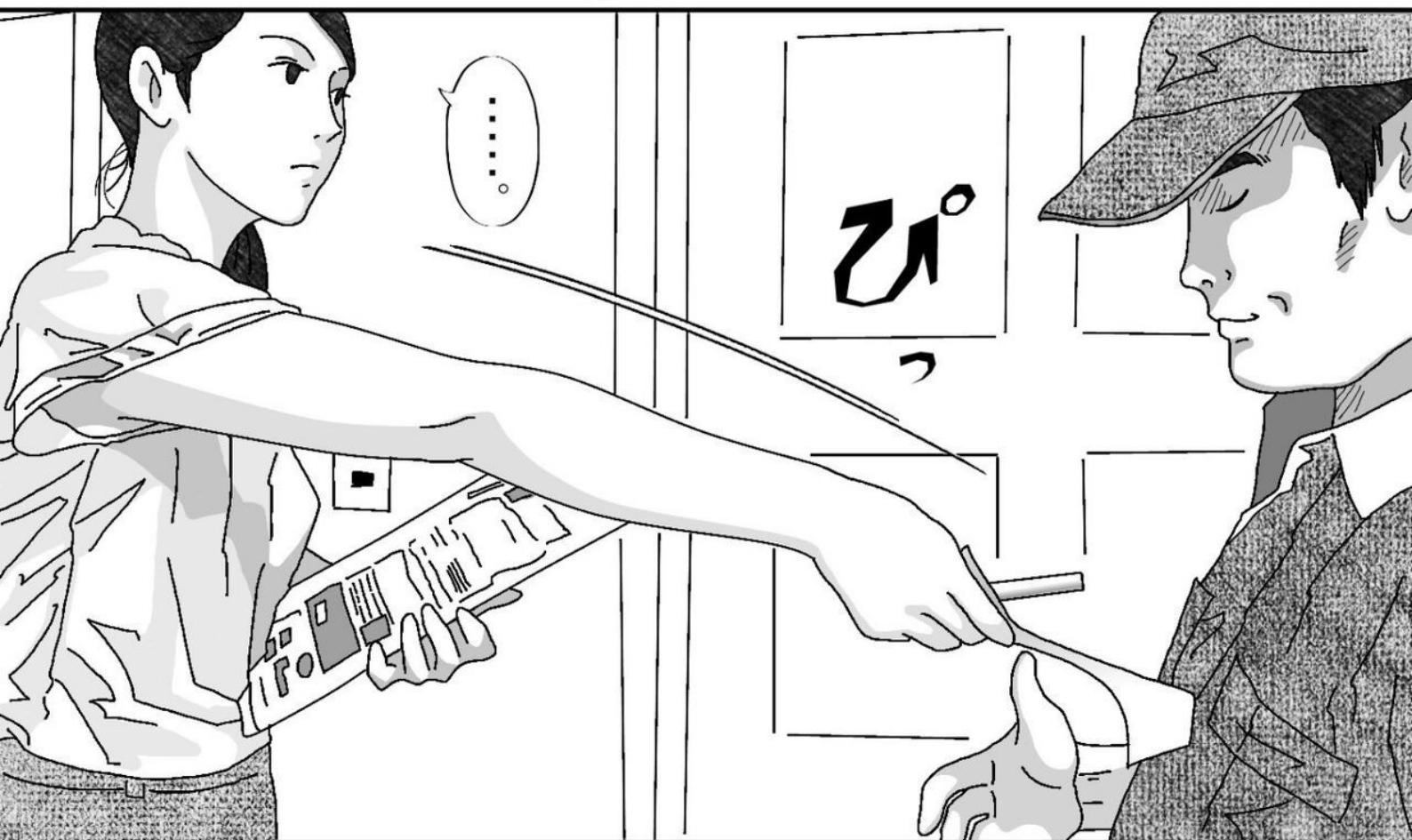




御免なさい！
奥さんが本当にタイプ
だったもんでさあ。



客を馬鹿にするのも
良い加減にした方が
いいわよ。



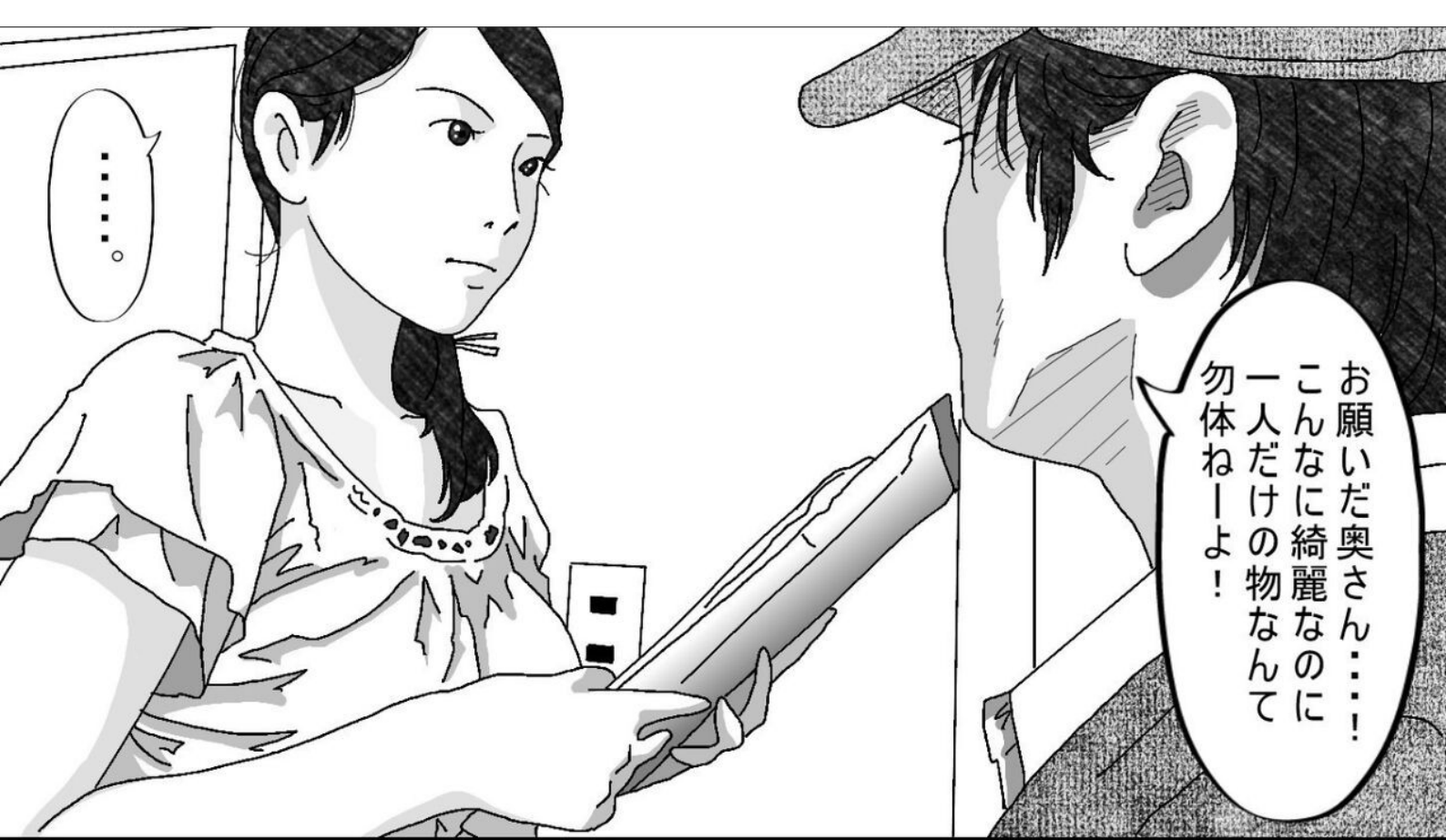
……

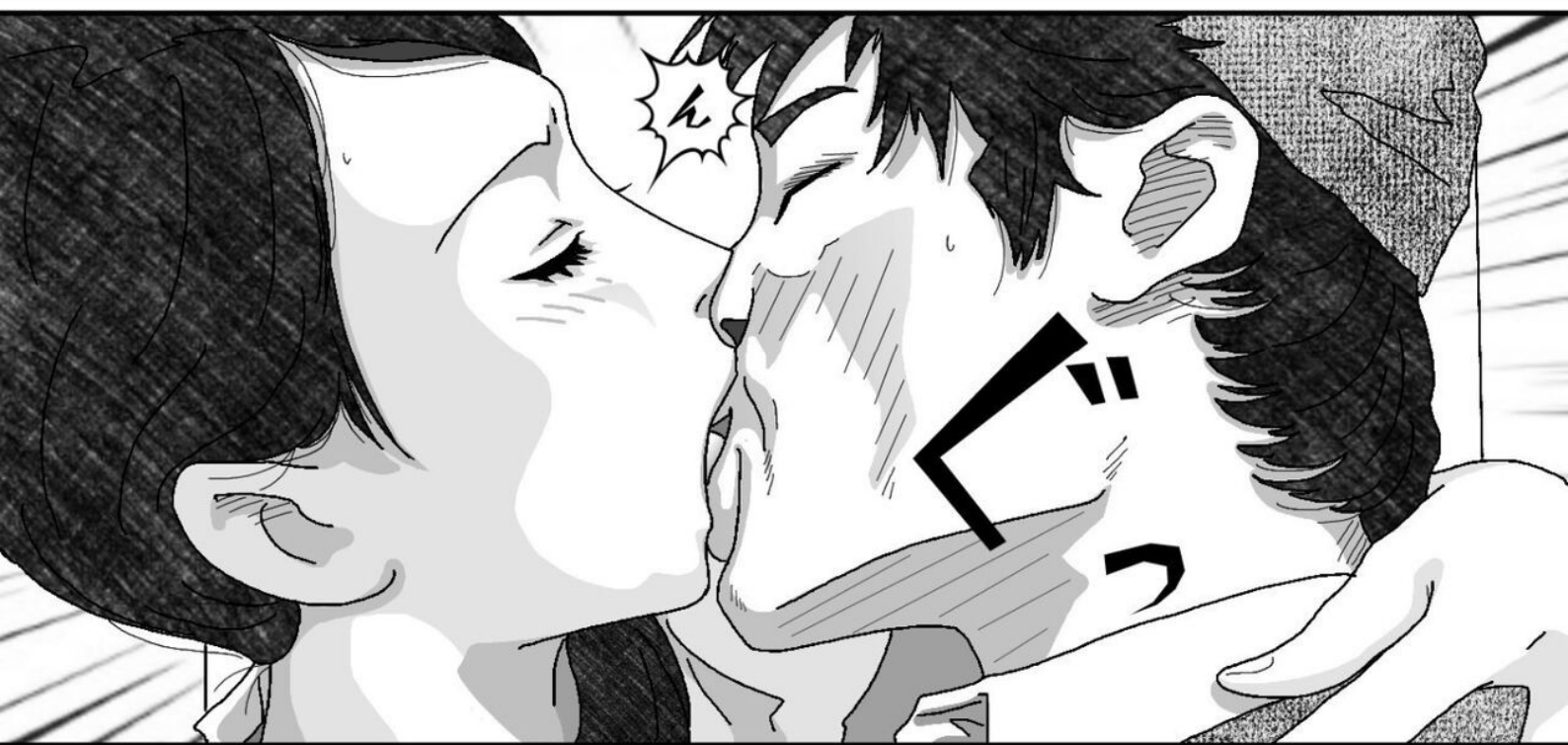


一回俺とやって
くんない？



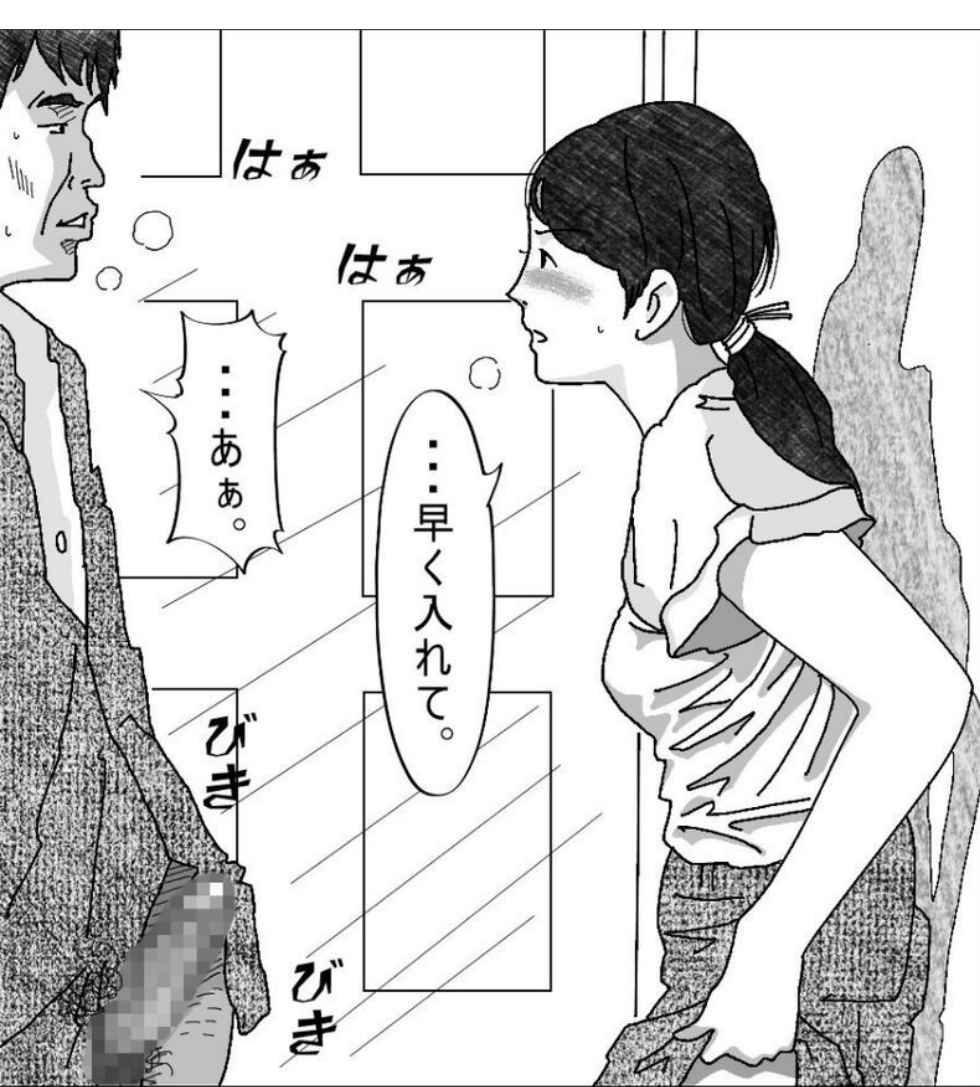
……奥さん時間
取らせないから……

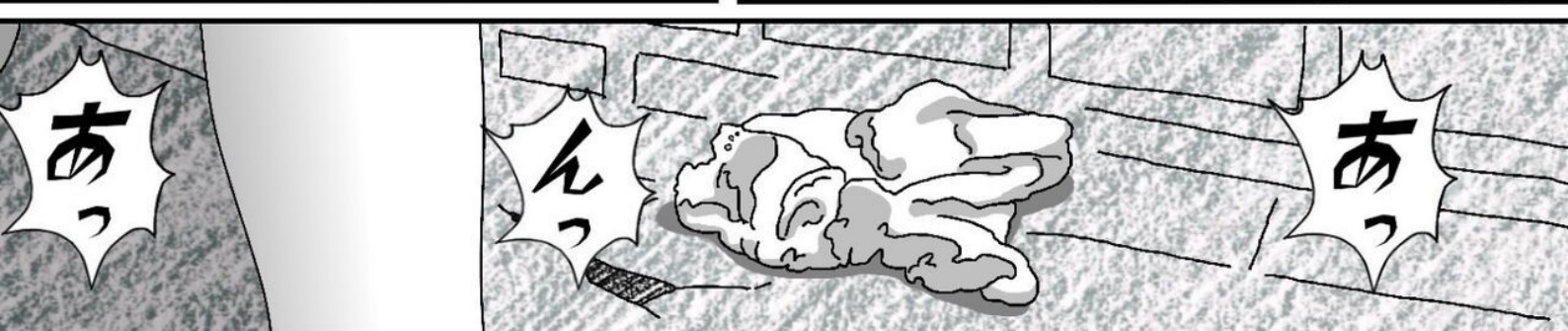
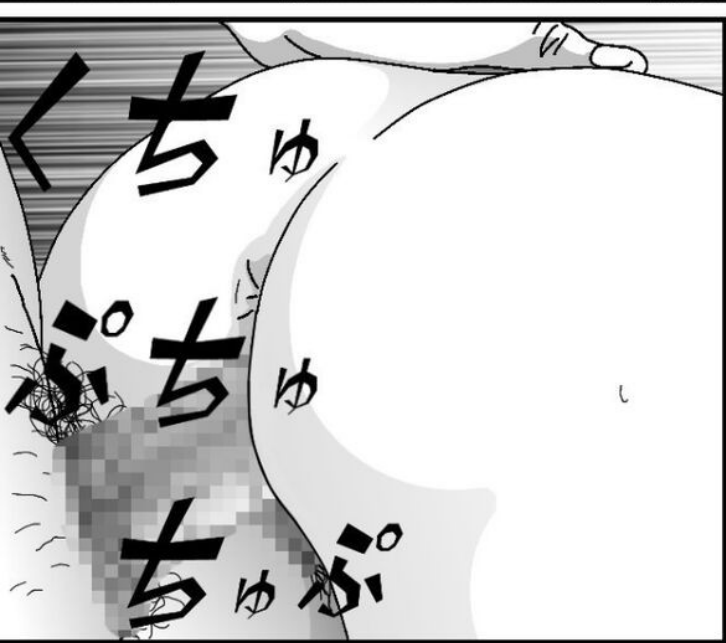


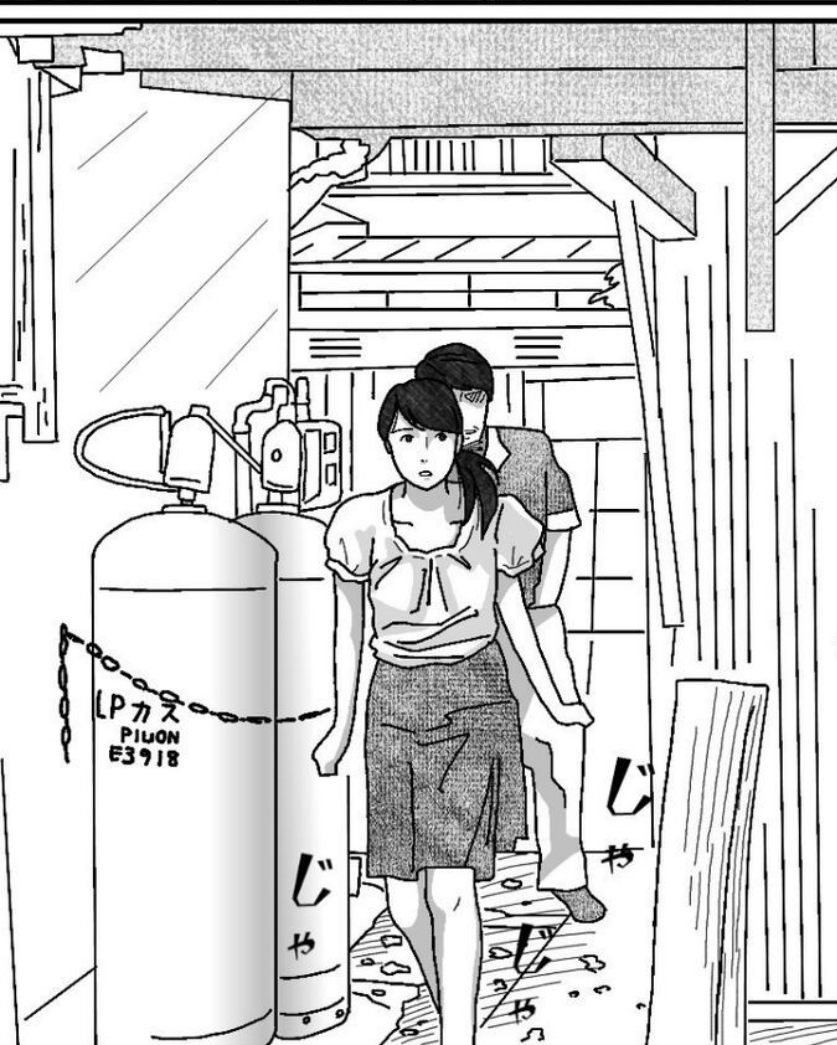


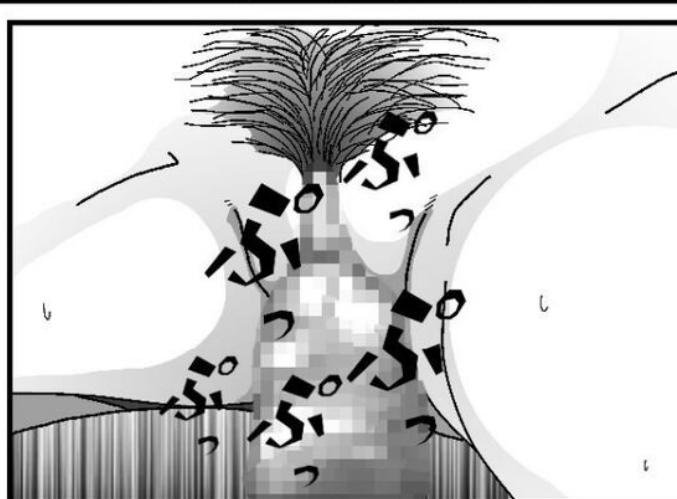




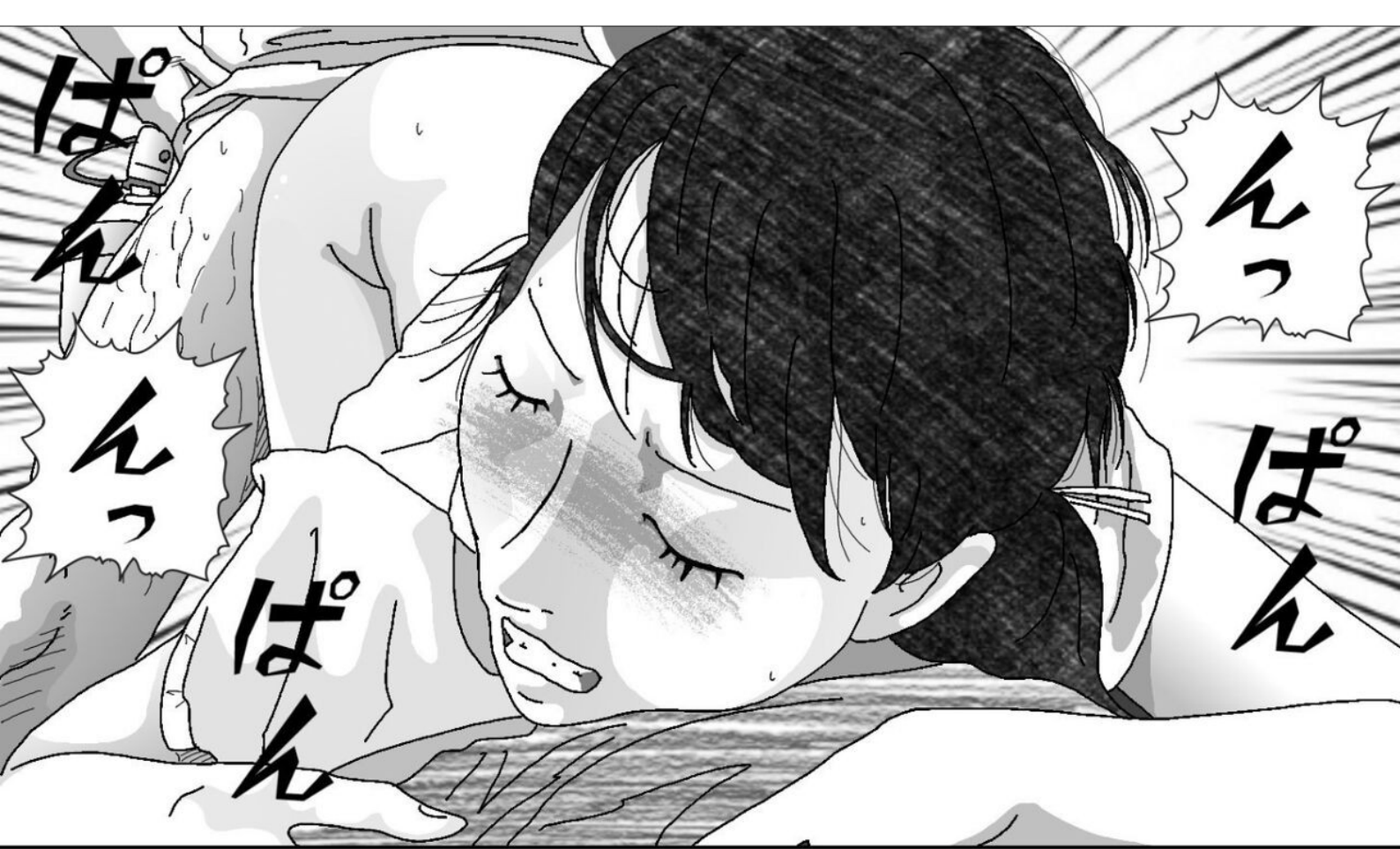


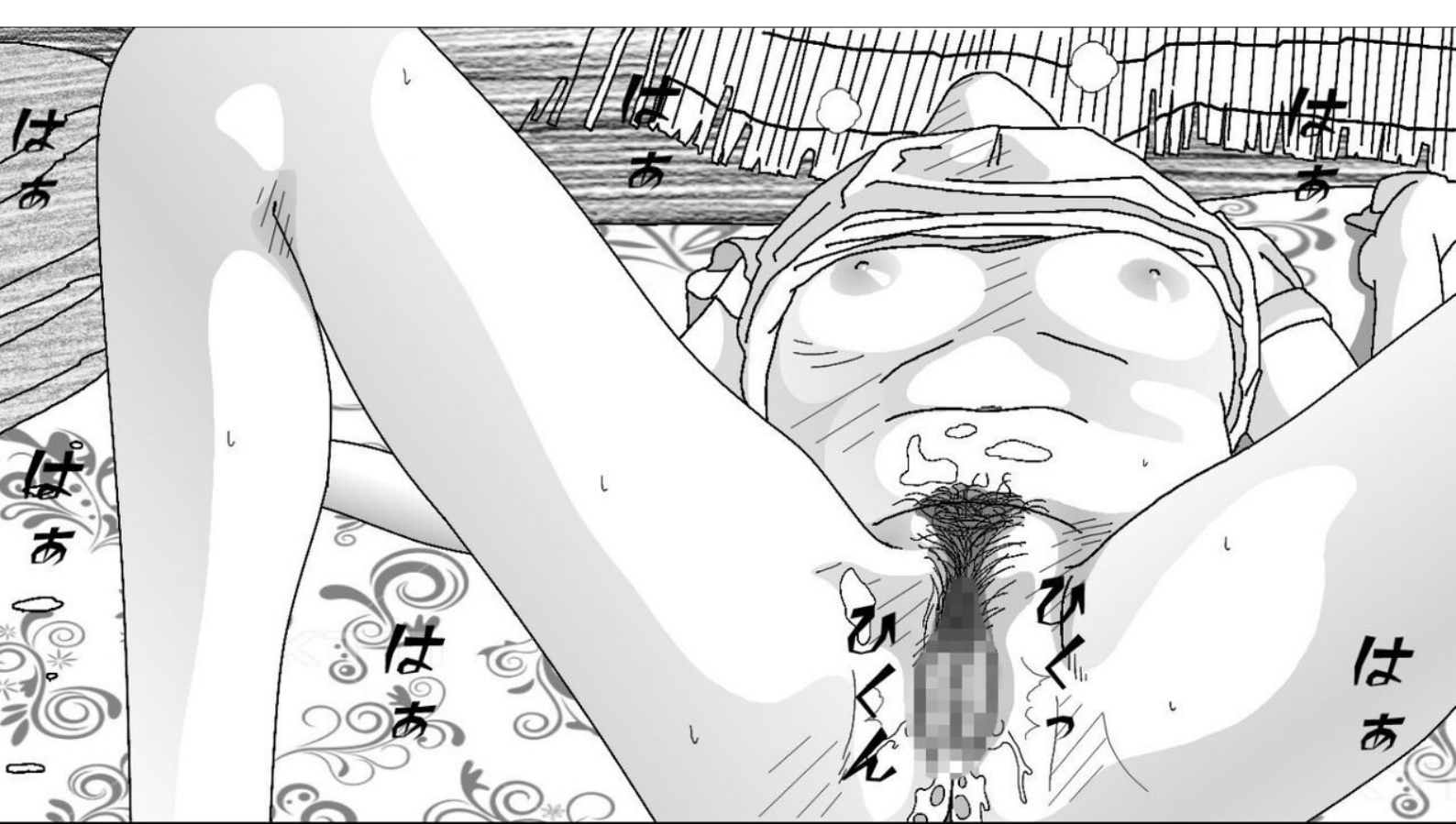












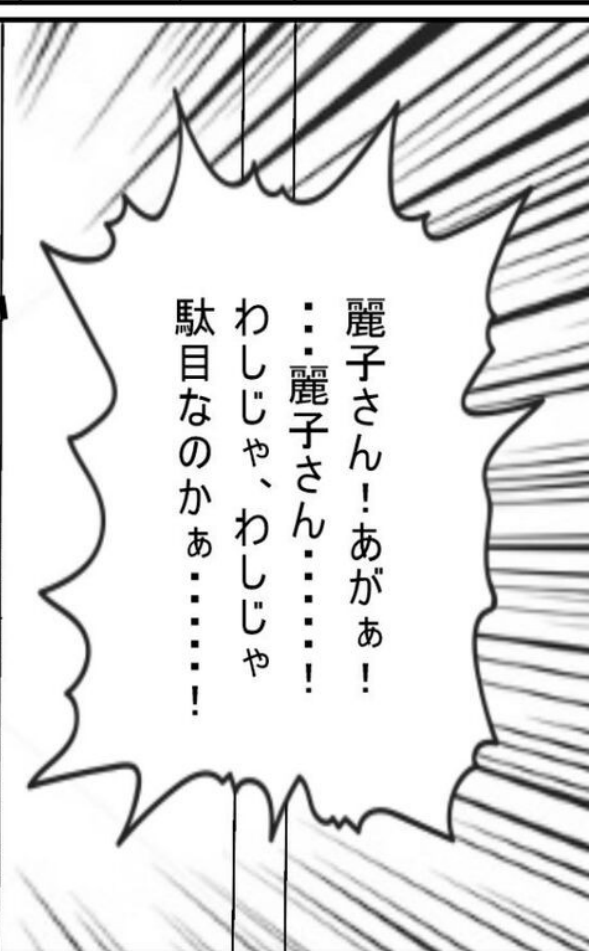


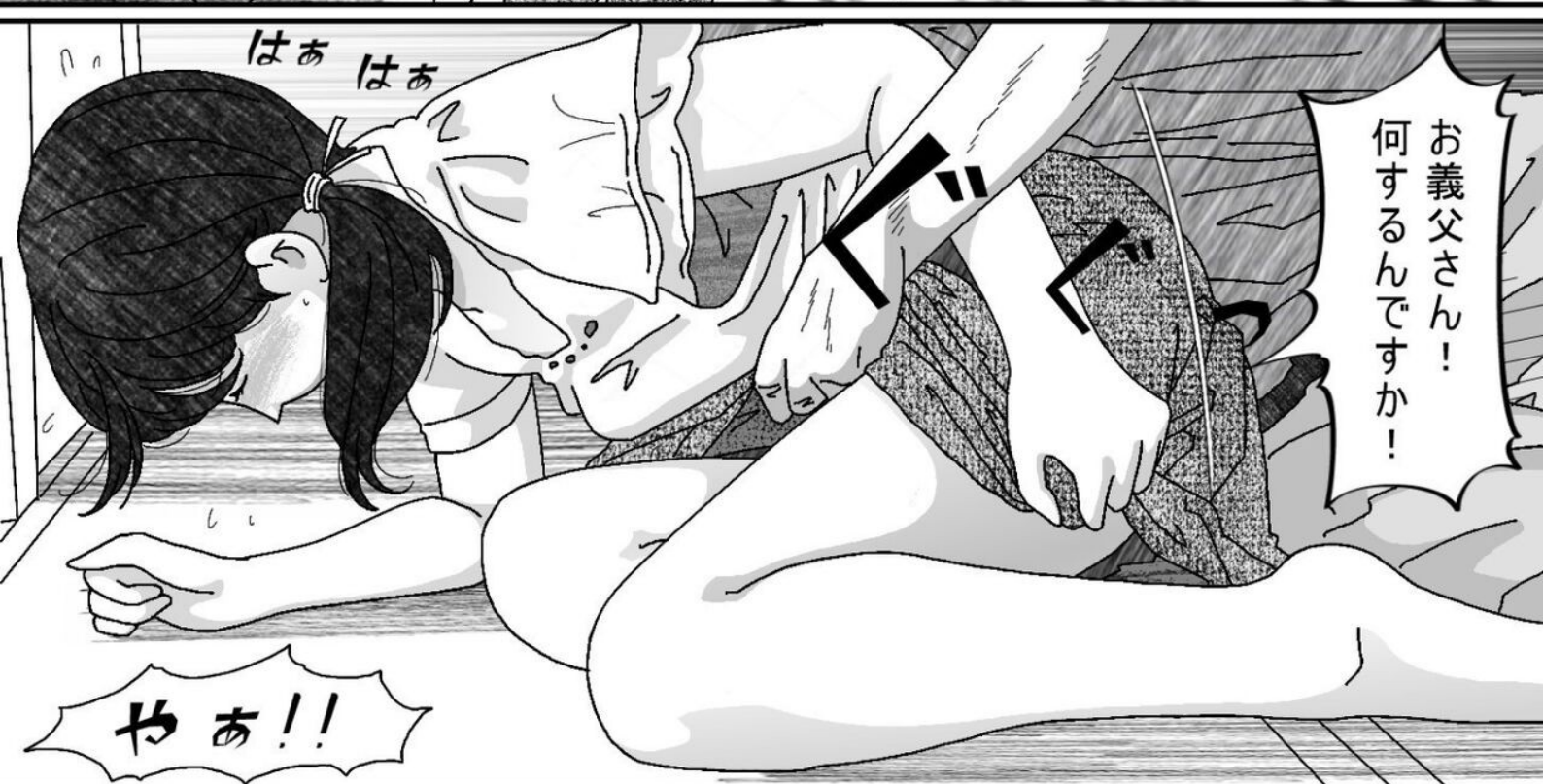




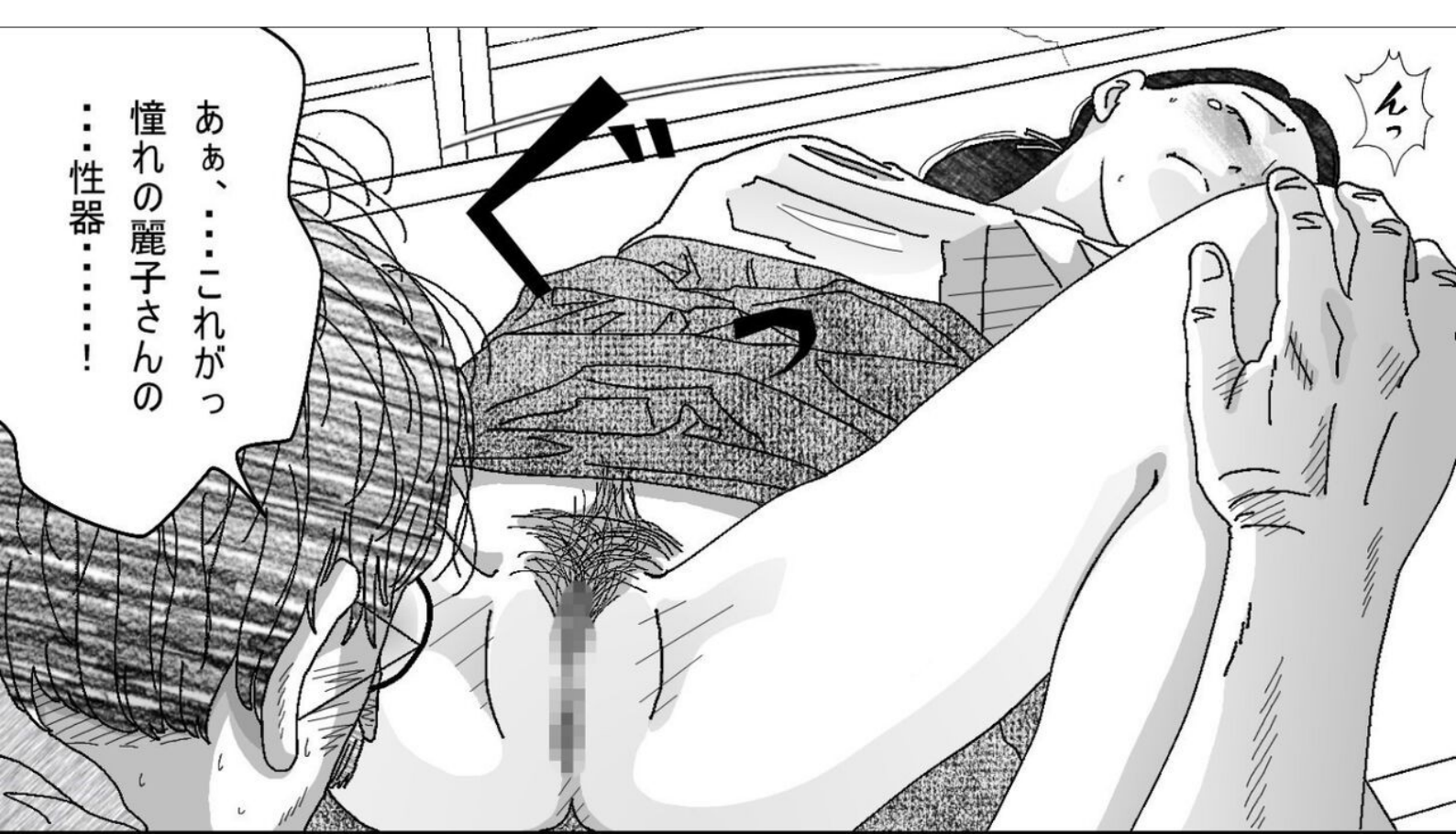






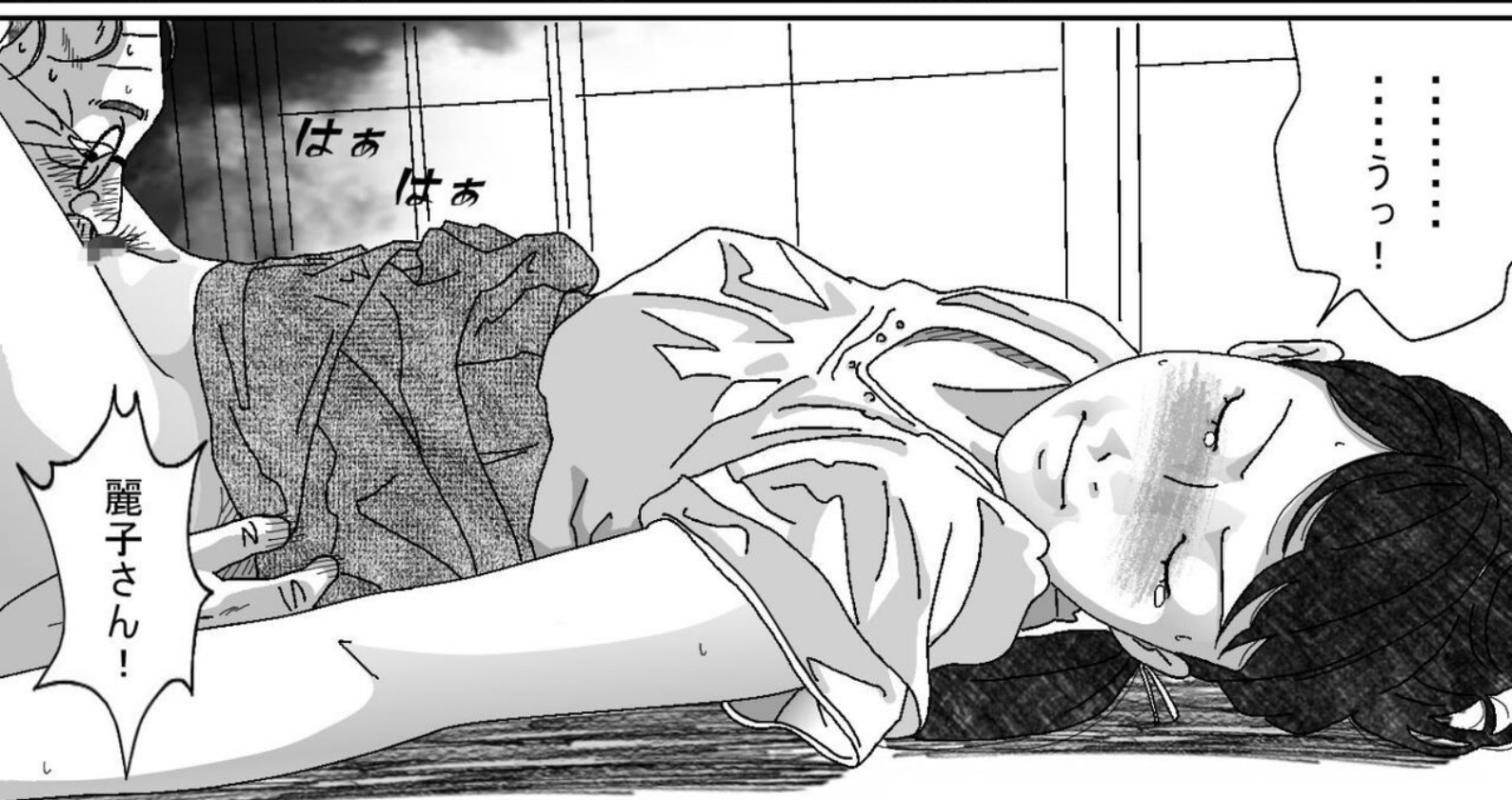






ああ、……これがっ
憧れの麗子さんの
……性器……!!

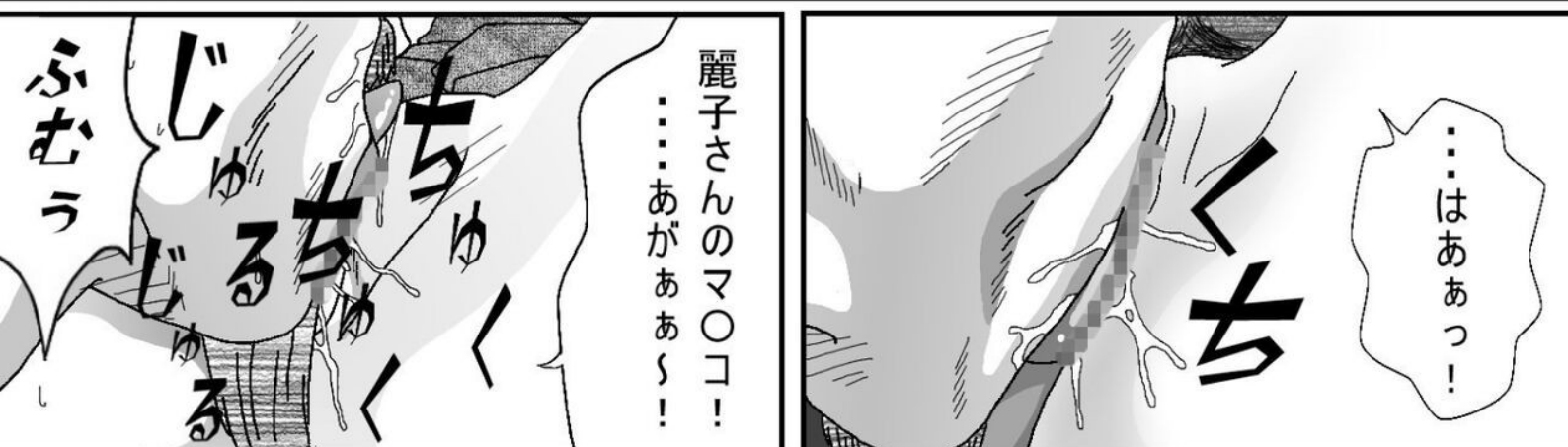
んっ



……
うっ!

はあ
はあ

麗子さん!



……はあっ!

麗子さんのマ○コ!
……あがぁあゝ!

じゅる
ちゅく
ふむう





